

もっといい明日が見えてくる - Letters from Gnoble

Gno G-let

グノレット

保存版 vol.28

2023年6月発行

東大合格
特集号

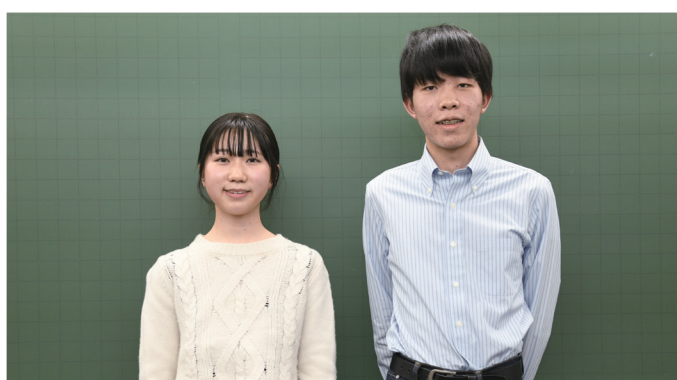
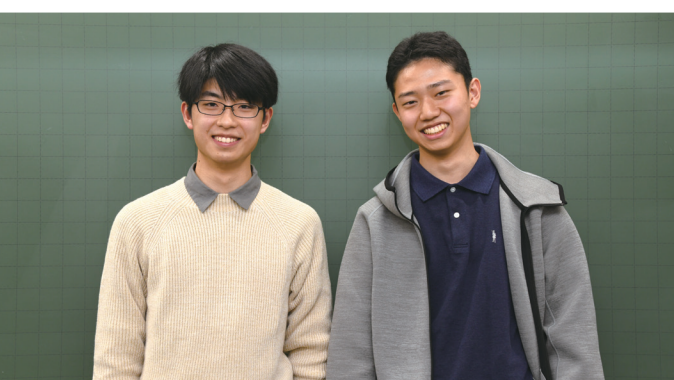
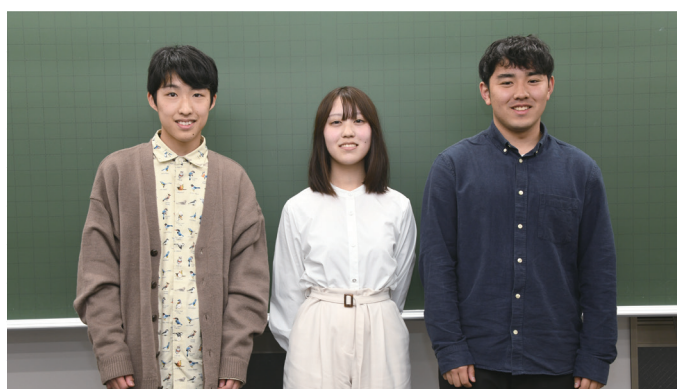
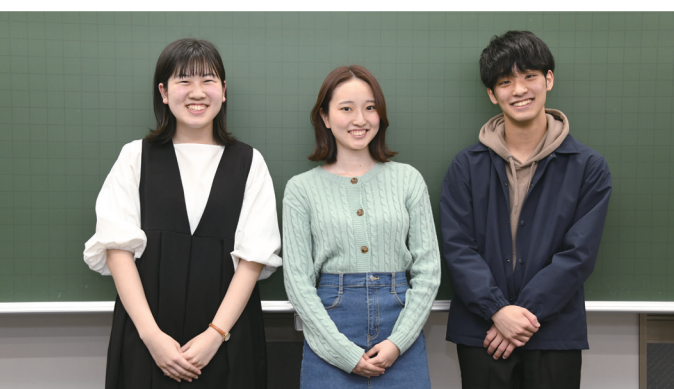
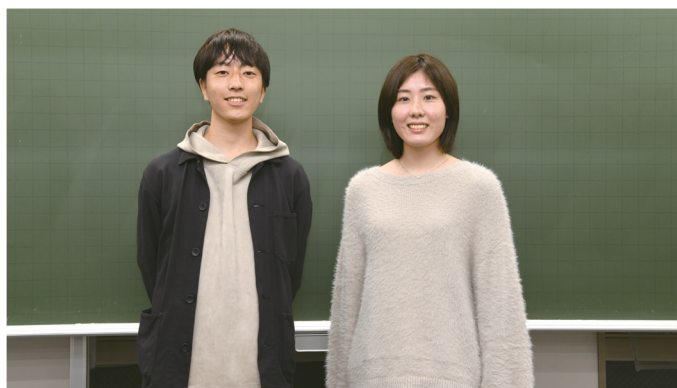
医学部合格者
インタビュー併載



グノブルを活かし、最大の効果を上げるヒント満載。
17期生の合格者インタビュー特集。



Gno's Highlight!!



知らない単語でも文脈や語源から推測して大体雰囲気分かるようになって、大きな流れはつかめて内容が分かるので楽しくなっていました。

母家 敬之さん（文Ⅰ・渋谷教育学園幕張）

東京大学 文系 Part 1 4 ページより

グノは宿題の量がほどほどで、学校生活や学校行事を圧迫するほどではなく、しっかり両立できました。振替も授業の直前まで HP で簡単にできたり、コロナ禍になってからは映像授業を見ることもできたので、学校の予定が急に入っても必ず授業を受けられました。石村 瑠菜さん（文Ⅲ・吉祥女子）

東京大学 文系 Part 2 9 ページより

グノで学んだことは役立つものしかありません。特に、語源や語根から意味を推測することを学べたことと、語順のまま解釈するのが習慣化できたことです。これから他の言語を第二外国語として学ぶ時にも生きてくると思います。

橋爪 佑季さん（文Ⅱ・駒場東邦）

東京大学 文系 Part 3 18 ページより

グノの数学は「どうやってその考え方にたどり着くか？」に時間をかけていただきました。「どうやったらその発想になるか？」をいろんな角度から書いてくださって、「どうして自分がそれを思いつけなかったのか？」を知ることができるので、次に活かしやすかったです。飯島 悠季奈さん（理Ⅱ・渋谷教育学園渋谷）

東京大学 理系 Part 1 25 ページより

高3の英語の授業では英作文と読解があって、それぞれの授業で先生からその日の内にフィードバックをもらえるのが自信にもやる気にもつながりました。

岡本 陽資さん（東京医科歯科大医・駒場東邦）

東京大学 理系 Part 2 31 ページより

グノは英語力を底上げしてくれる塾です。大学受験をゴールとした英語ではなく、英語力をボトムアップすることによっていろいろな英語に対応できるようにしてくれます。小花 栄貴さん（理Ⅰ・開成）

東京大学 理系 Part 3 36 ページより

数学のセルフチェックシートは最初「めんどくさい」と思っていたけれど、続けていくと効果が表れてきます。言語化することで、穴埋めではない記述解答の国公立にも対応できます。伊藤 ゆめかさん（大阪大・豊島岡女子学園）

国・私立大学 医学部 Part 1 45 ページより

グノの物理は公式から入るのではなく現象から入るのが他との違いです。公式は現象を理解するためにあることが理解できて、公式に対するモヤモヤした印象が解消できました。中山 渡さん（筑波大医・麻布）

国・私立大学 医学部 Part 2 51 ページより

先生方との距離感はとても近くて、本当に個人個人の意思やスタイルを尊重して、時には的確なアドバイスをしてくださって、そういう距離感や空気感はとても居心地が良くて、学んでいて楽しかったです。赤嶺 佑奈さん（東京女子医科大医・浦和明の星女子）

中学受験グノーブルOB・OG 座談会 57 ページより

CONTENTS

17 期生 合格者インタビュー

東京大学 文系 P1-20

東京大学 理系 P21-38

国・私立大 医学部 P39-51

中学受験グノーブル OB・OG 座談会 P52-57

2023 年東京大学・医学部合格者インタビューをお届けします。

今号は、中学受験グノーブル OB・OG 座談会も収載されています。

膨大な情報量になっていますが、グノーブルを活かして最大の効果を上げるためのヒントがぎっしり詰まっていると思います。これから大学受験をされる皆さんには、マーカー類を片手に、気になる発言や参考になりそうな箇所に印をつけながら全編に目を通すことをお勧めします。

勉強を進めていく時に大切なことは、先輩の体験や先生の助言を参考にしながら、徐々に自分に合った勉強法を確立していくことです。このグノレットの中に、お手本にできることがあれば、ぜひ、お試しください。

また、勉強に行き詰まったり、気持ちが折れそうになったり、迷いが生じることもあるでしょう。そんな時には、改めてこのグノレットを開いて先輩たちの声に耳を傾けてみてください。きっと勇気をもらえると思います。

2023 年 6 月 グノレット編集部

17 期生 合格者インタビュー

東京大学

文系

座談会出席者 (五十音順、本文中敬称略)

Part 1



里見 悠成さん
(文 I・駒場東邦)



澤田 幸希さん
(文 II・吉祥女子)



丸山 晴己さん
(文 III・駒場東邦)



母家 敬之さん
(文 I・渋谷教育学園幕張)

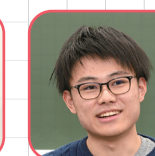
Part 2



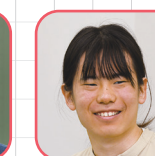
石村 瑠菜さん
(文 III・吉祥女子)



因間 円香さん
(文 II・桜蔭)



佐久間 啓さん
(文 II・早稲田)



佐藤 由啓さん
(文 II・武蔵)



本多 悠翔さん
(文 I・駒場東邦)

Part 3



橋爪 佑季さん
(文 II・駒場東邦)



鷺野 萌花さん
(文 II・渋谷教育学園渋谷)

東京大学 文系 Part1

さとみ ゆうせい
里見 悠成さん (文Ⅰ・駒場東邦)

さわだ ゆき
澤田 幸希さん (文Ⅱ・吉祥女子)

まるやま はるき
丸山 晴己さん (文Ⅲ・駒場東邦)

もや たかゆき
母家 敬之さん (文Ⅰ・渋谷教育学園幕張)

「グノーブル入塾のきっかけ」

母家：僕は中学1年生のスタートダッシュ講座*からです。兄がグノーブルに行っていた関係で入りました。兄からや、兄の友達からグノの話を聞いたりして、「グノいいね」となりました。

澤田：同じく中1のスタートダッシュ講座から通いました。私も兄がグノに通っていて、「すごいいいよ」と聞いていたので、英語も数学もグノにしました。国語は高1で古文を取りました。周りの人たちが他塾に通っていても、私はそちらのほうが良いとは思いませんでした。

丸山：僕は高1から入りました。もともと中学生の時から「高校生になってから、勉強に力を入れるために塾をスタートしよう」と決めていました。グノを選んだ理由は、親から「英語はグノがいいらしいよ」という話を聞いていたからです。駒東はグノ生が多いです。

時間ができたのでとりあえず説明会に参加してみました。先生が直接お話をしてくださったのですが、「いいな」と思いました。サッカー部の先輩もグノを勧めてくれたのと、親経由で友人のお兄さんもグノだと聞いていました。駒東内では「英語はグノがいい」と評判だったし、説明会も気に入ったので、高1の春期講習からスタートしました。部活が終わったあとにみんなで塾に行くのが楽しかったです。



里見 悠成さん
(文Ⅰ・駒場東邦)

澤田：グノは先生も生徒もすごく意識が高く、授業の密度が濃くて熱くて、刺激を受けました。先生には隅々まで見ていただきました。先生はすぐに生徒の顔と名前を覚えてくださいます。受験報告会の時も、中学生の時に壁の端のほうに座っていた私を先生が覚えてくださっていたことがうれしかったです。

里見：僕は他科目でもうひとつ別の塾に通っていましたが、こちらは教室が大きくて人数も多くて、先生が一方的に話すだけでした。課されたものをこなす受け身の授業です。一方、グノは、小さい教室だから先生と生徒との双方向の授業で、自発的に勉強できるのが良かったです。たとえば、先生が解説してくださっている時、僕が不安な表情をしていると、先生がそれに気づいてくださいます。それは本当にすごいと思いました。

丸山：グノの一番の特徴は当てられることだと思います。先生は最初の授業から名簿も見ずに生徒の名前を言うので、



澤田 幸希さん
(文Ⅱ・吉祥女子)

「すごいな」と思ったことが印象に残っています。僕も里見君と同じ塾に通っていて、英語の講習を受けたことがあります。あちらは教室が本当に広いし、受験英語をやっているイメージが強かったです。一方、グノは英語力そのものが鍛えられている感じがして、その大きな違いがグノの良さだと実感しました。

母家：僕は他塾の冬期講習で数学を受けました。家で問題を解いてきて、塾で一方的に解説を聞く授業でした。これに対して、グノは授業内に問題を解く時間があって、解いたばかりの新鮮な気持ちのまますぐに問題の解説を受けられるので、それが良いところだと思います。

「グノーブルの話題」

母家：家では、「英語の授業がこんな内容だった」ということをよく話していました。学校では「どこの塾に行っている

の？」と聞かれたら「グノーブル」と答えていました。僕がグノーブルを勧めたことでグノーブルに通った人も数人いました。学校にグノーブルを広められたのかなと思っています(笑)。

丸山：駒東にはグノ生がめっちゃ多いので、グノの話はよくしていました。特にサミングアップ*の点数や、「今回はむずくない？」みたいな話が良かったです。家族には、点数が良かった日にたまに話していたくらいです。

里見：僕も親とは結構話していました。英語の文章自体が面白くて、知らないことばかりだったので、「こういうのがあるらしいよ」みたいな話をすることがよくありました。親と話すきっかけにもなっていました。

澤田：私も、その日に扱った文章について、「これってこうなんだよ」と親に話していました。読解の先生がよく野鳥の話をしてくださって、たとえば「アルプスを越えるツルがいるんだよ」みたいな話を聞いた日は、それを親に一方的に話しました。学校では、グノに通っている人同士で集まって「先生のこういうところが好きだね」と話していました。

「学校とグノーブルとの両立」

澤田：すごく両立しやすかったです。通常授業の振替がしやすくて、休まずちゃんと受けられたのが良かったです。

里見：部活が忙しかったんです

が、部活を終えてからでも授業に通えて良かったです。グノの勉強は復習が中心で宿題は多くなかったの、家での負担も少なかったです。グノは部活とも学校の勉強とも両立しやすかったと思います。

丸山：両立はしやすかったです。僕はあまり振替をしませんでした。「1週間に1度この日にグノに行く」というペースが崩れるのが嫌だったからです。映像授業を利用したこともありましたが、そもそも僕はグノの授業に行けなかったことがあまりありませんでした。

母家：僕は学校が遠かったの、部活終わりに塾に行くことはできませんでした。国語も通常授業を取りたかったけれど、部活との兼ね合いでできなかったの、完璧に両立できたかといえませんが、英語に関しては、学校の勉強にグノの勉強が影響することはなく、



丸山 晴己さん
(文Ⅲ・駒場東邦)

* スタートダッシュ講座：新中1対象の講座（2～3月に開講）。

* SUMMING-UP LABORATORY：高3の英語（読解）で毎回実施される英文の要約演習。一人ひとりの答えは担当講師が添削・採点して返却。音声教材も完備。知的にレベルの高い「読解力」の土台を築けるばかりではなく、「読解力」「作文力」「話す力」や「プレゼン力」も鍛えるグノーブル独自の仕組みです。



母家 敬之さん
(文Ⅰ・渋谷教育学園幕張)

そこは両立できました。

グノーブルの英単語習得

里見：高1の初めの頃、本当に英語を全然やっていなくて、ゼロからのスタートでした。でも、英語と日本語の違いがグノではしっかり説明されたので、すぐに英語に慣れました。グノでは、英単語を日本語に対応させていくのではなくて、成り立ちから英語としてのニュアンスを教えてくださいました。返り読みも決してせずに、英語の語順通りに解釈していくやり方も教えてくださいました。

英語の構造がグノの授業を通して自然に頭に入ってきたので、読むスピードもすごく上がりました。英文の論理の展開にも慣れたので、「ここはこういうことが書いてあるんだろうな」と推測しながら読むことができるようになって、英語を読むのが楽になりました。

グノのおかげで自分の力で読んでいけるようになったので、大学に入ってから出合う英文にもあまり不安はありません。

母家：僕は単語の暗記が苦手でした。でも、グノでは単語丸暗記ということはありません。先生が、文章で出てきた単語を語源から掘り下げてくださったので、苦なく覚えられました。そういう点で、そもそも英語の勉強が嫌だったのが嫌でなくなったのが大きかったです。嫌でなくなったので積極的に勉強できるようになって英語の力が身につきました。

丸山：僕は英語の力がつきました。きっかけは高3から始めた音読です。そこから英語が安定しました。実は、高1と高2は音読をやっていませんでした。

それから、僕も単語帳が苦手だったので、グノの単語の覚え方は本当に良かったです。

里見：僕は高1の頃は単語帳の暗記をやって英語から日本語の意味は1対1で入っていたけれど、それだと限界が来て、すぐに応用が利かなくなります。グノで語源を教わって根幹のイメージみたいなものを習得すると、文脈に合致する意味が自然に引き出せるようになります。解説の時に、日本語訳だけでなく、言葉のイメージのようなものを教えてくださいました。いちいち日本語に置き換えることなくスラスラ読める感覚も身につきました。

母家：単語帳を使った勉強だと、

結局、英語を日本語と対応させて覚えているだけなので、覚えていない単語が次々出てくると文章が全然読めなくて「英語ってつまらないな」となってしまいます。僕にはそういう時期がありました。でも、知らない単語でも文脈や語源から推測して大体雰囲気が分かるようになると、大きな流れはつかめて内容が分かるので楽しくなっていました。グノで勉強すればするほど、日本語を読んでいるみたいに英語を読むのに慣れて、とても読みやすくなっていくのが実感できました。

グノーブルの音読

澤田：私は最初、英語を日本語に置き換えて日本語で理解しようとしていたんですけど、英語を英語のまま理解できるようになって、英語を使っている人たちの気持ちを理解できるようになりました。音読のおかげです。先生がいつもおっしゃっていた「迫真の演技で、自分がスピーチをしているかのように音



里見 悠成さん
(文Ⅰ・駒場東邦)

読する」のをやっていたら、本当に効果がありました。

丸山：僕も音読が一番だったと思います。音読を始めてから英語の成績が伸びました。サミングアップのプリントには音声教材もあるし、毎日読んでも負担にならない分量だし、英語を英語のまま読むのもそこで鍛えられたと思います。音読を続けていると、普通に日本語を使っている感覚に近くなります。英語なのに外国語をやっている感覚がなくなっていったのは、高3で力がついてからでした。音読をやる前は、英語を前から読んでも1個ずつの単語をバラバラに日本語に訳しながら解釈していましたが、英語のまま読めるようになったのは大きかったです。

授業内演習と添削

母家：授業内の演習と添削はすごくありがたかったです。添削もすぐに返ってきて、その場で解説を聞けるから、自分のできなかったことや課題もすぐに分かって、すぐに改善できて、すぐに復習できました。

里見：宿題で演習して別の日に解説だと、寝たら内容を忘れてしまいます。でも、グノは演習直後に解説してもらえるので、自分が演習でモヤモヤしていたところを覚えていられます。その状態で解説を聞くと「そういうことだったんだ」と納得感も得られました。

丸山：里見君の言うとおりの授業内演習だと、自分が分からな

かったところを覚えていられるし、分かった気になったところも覚えていられます。すぐに解説されるから「ここが違ったんだ」と印象に残ります。

澤田：授業内演習では先生が添削してくださって、生徒の状況を分かった上でどこを重点的に解説するか決めてくださっているようでした。授業内で演習して、すぐに添削が返ってくるので、添削された自分の解答を見ながら解説を聞けます。そのおかげで、すごく身に染みるというか体に入ってきました。英語を自分のものにできている感じがしました。

解説では、語源などもきちんと説明してもらえまして、アカデミックな文章の構成を説明してもらえたので、「筆者はこれを言いたい」、「ここはそのサポート部分」と英語での論理の展開もきっちり理解できたので、グノで学んだことはきっと将来役に立ちます。

グノーブルの数学

澤田：中1から受けました。すごく良かったです。グノの数学は授業内に演習します。先生が回って途中式を見てくださって、「ここですみずいてるよ」みたいにアドバイスをくださいます。すぐに答えを言うのではなく、なるべく自分で解決できるように工夫された授業でした。小学生時代は算数が本当に苦手だったんですが、数学がすごく好きになりました。



澤田 幸希さん
(文Ⅱ・吉祥女子)

丸山：僕は高1からです。生徒が演習している時、先生が近くに来て見てくださいます。それが印象的でした。途中まで書いたものまでしっかり見てもらえるのもグノらしさでした。

母家：僕も中1から受けました。もともと算数が好きで数学も好きだったのですが、グノの数学は特に楽しかったです。特に高校1年の時の先生にすごくお世話になりました。数学が大好きになりました。

グノの数学は少人数で、ほぼ個別対応みたいな感じでした。途中でつまずくと解説まで暇な塾もありますが、グノではつまずいたらつまずいたで、どこでつまずいているのかをその場で教えてもらえるのが良かったです。

グノーブルの国語

母家：高2で古文を取って、高3の冬期講習と直前講習にも参加しました。高1まで古文が苦手な、古文単語帳も嫌いでした。でも、「グノオリジナル古文単



母家 敬之さん
(文Ⅰ・渋谷教育学学園幕張)

語帳”は別でした。これは英語と同じで、丸暗記ではなく語源を書く欄や派生語を書く欄があって、自分で埋めていく形式です。つながりや似た言葉を混同しないように工夫されていて、とても役立ちました。それから、授業内でたくさん文章を読むので、読んでいくうちに単語が分かるようになっていきました。

澤田: 私は高1で古文、高2で現代文、高3で東大国語を受けました。国語も全部良かったです。他の科目と同じくただ一方的に聞くだけでなく当てられます。古文はお帰りの問題があって、毎週書いて添削していただいて、次の授業で解説されます。それを毎回やっていたので実践力がつきました。現代文もその場でリライトして、それをまた見ていただいて、記述問題が書けるようになりました。現代文はグノでやっておけば大丈夫です。

グノーブルの先生

澤田: 本当に皆さん熱意があって、その科目に対する愛情が伝

わってきて、こちらもうれしくなりました。背筋が正される思いうるか、頑張ろうと思えます。英語の先生の中に板書の量がすごくて、毎回授業をするたびに黒板の下にチョークの粉がうっすら積もるくらいでした。その先生はとにかく情熱的な授業で、東大国語の先生が「魂を削る授業」とおっしゃっていて、本当にそのとおりだなと思いました。

里見: 先生は皆さん、楽しそうに授業をしてくださったのが印象的でした。けだるそうな先生の授業よりも、こっちも楽しくて「話を聞きたいな」と思えたので、説明がずっと入ってききました。

丸山: 皆さんの熱意がすごかったです。それと距離が近いのも特徴です。こちらが授業を受けて学ぶ場なのに、こちらの熱意よりもあちらの熱量が高いかもしれないという状況でした。引っ張っていただいた感じがあります。

母家: 親しみやすい先生ばかりでした。中1からいろいろな科目を取って、いろいろな先生のお世話になりましたが、例外なくどの先生も関わりやすい雰囲気でした。中1の時に世話になった先生と今でも仲が良いのもうれしいですね。

後輩へのアドバイス

澤田: グノを大好きになったら相乗効果ですべてうまく回り出します。グノは通っていたら絶

対に好きになります。

里見: 受験では、不安になっていろいろな教材に手を出したくなると思うけれど、グノの復習だけを徹底的に行いましょう。授業の1週間前もそうですが、長期休暇だったら1か月前や3か月前の教材を見直すなどして、とにかく復習を徹底すれば、英語は自然とできるようになります。

丸山: 先生が「こうやったほうがいいよ」とおっしゃることを信頼してやるのが一番です。グノに入った時からずっと「GSL*をやりましょう」と言われるので、本当にそれをやってみるのが大事だと思います。僕は高3からしかやらなかったのが、最初から先生の言うことを聞いておくべきだったと反省しています。

母家: 僕は一番前の列に座っていて、授業に集中していました。先生の前だと集中度がMAXになるので、その特等席を取ることが大切だと思います。



丸山 晴己さん
(文Ⅲ・駒場東邦)

東京大学 文系 Part2

いしむら る な
石村 瑠菜さん (文Ⅲ・吉祥女子)

いん ま まどか
因間 円香さん (文Ⅱ・桜蔭)

さ く ま けい
佐久間 啓さん (文Ⅱ・早稲田)

さ と う ゆうけい
佐藤 由啓さん (文Ⅱ・武蔵)

ほん だ ゆうさく
本多 悠朔さん (文Ⅰ・駒場東邦)

中学受験グノーブルの思い出

佐藤: 僕は小学4年から5年くらいまで他塾に通っていましたが、宿題の量が多すぎて辞めてしまいました。途中、8か月間くらい中学受験の勉強をしていりませんでした。小6の6月くらいに改めて「塾に入ろう」と思いました。小規模で面倒見が良さそうだったので、親と相談してグノーブルに決めました。

僕は前の塾のガツガツした雰囲気が好きではなくて、丁寧にフォローしてくれるグノーブルが合っていました。当時は中学受験のための国算理社4科目で、通常授業と土曜特訓、日曜特訓のすべてを取っていました。それにプラスして個別指導グノリンク*でフォローしてもらっていました。

石村: 私は、小学2年に上がるタイミングで地方から引っ越してきて、中学受験について全く知らない状態でした。周りが受験するタイミングで、「自分も受験してみよう」と決めて塾を

探しました。その時に開校したグノーブル吉祥寺校に当初から入ることができて、みんな同じレベルで国算理社を一から教えてもらえました。

先生がすごくコミュニケーションを取ってくださって、添削を丁寧にしてくださったり褒めてくださったりしたのが記憶に残っています。少人数で友達もできやすく、アットホームな雰囲気でした。

グノーブル入塾のきっかけ

因間: グノーブルの英語でお世話になっていた姉から「すごくいい」という話を聞いていました。母からの勧めもありました。

私は高校生になったらグノーブルのお世話になることを決めていて、中学生の頃は季節講習だけ参加しました。その時にすごくいい先生に出会ったので、予定を変更して、数学は中3の春からお世話になりました。英語は中3の秋から通い始めました。国語は高3で東大国語を受講しました。



石村 瑠菜さん
(文Ⅲ・吉祥女子)

* Gno-let Sound Laboratory: 中1から高3までの6学年すべてに毎週用意されているオリジナル英語音声教材。合理的練習法(ワークアウト)も確立されており、英語が得意なグノーブル生の土台を築いています。

* グノリンク: 個別指導グノリンク。対象は小学生から大学受験生まで。難関中、医学部、難関大学受験に向けた学習指導だけでなく、内部進学を目指す方も全面的にサポートしています。

でも、高2のタイミングで周りの人たちが塾に行き始めて焦ったのと同時に、「本格的にもっと英語を勉強したいな」と思ったこともあって、塾選びをスタートしました。駒東では「英語で塾に行くならグノ」という雰囲気がありました。

佐藤：大学受験グノーブルは、スタートダッシュ講座*がすごく良くて「行こうかな」と思いましたが、まずは中学校の勉強に学校だけでどのくらい対応できるかも試してみたかったので見送りました。親からも「まずは学校で良い成績を取れるようになってからにしないと、どっちつかずになるのではないかな」と心配されていたのもあります。

結局、高校1年生の春休みに入塾しました。その前に予備校の講習も受けましたが、予習が前提で授業中は演習せずに一方的な解説があるだけで、自分には合いませんでした。グノーブルは授業内演習があってその場で集中できるし、復習に力を入れているので予習しなくていいのが魅力的でした。中学受験で親近感があったのも入塾の決め手になりました。

石村：大学受験グノーブルには中2で春期講習に通い、そこで良い印象だったので入塾しました。先生とのコミュニケーションという点で中学受験グノーブルと同じものを感じて、「ここならやっていける」と思いました。



因間 円香さん
(文Ⅱ・桜蔭)

グノーブルの印象

石村：他塾は一方向型の講義形式の授業が多い印象です。一方、グノーブルは先生が当ててくださったり添削があったりする双方向型で、生徒が主体的に参加していくスタイルです。最初の頃、私は当てられるのが不安で恥ずかしい思いもありましたが、逆に人前で思いっきり間違えう経験を通して、間違えることは恥ずかしくなく、記憶にも強く定着することだと思えるようになりました。

佐藤：友達が通っていた中高一貫進学塾では大量の予習が必要でした。グノーブルは予習の必要がほぼなかったのが、大きな違いです。それから、他塾で受けた授業では、講義が一方的に続いて、演習もなく、集中力がもたなくて途中で寝てしまいうようになりました。グノーブルは演習できるし、生徒と先生のやりとりで授業が進むのですっ

と集中していられます。

本多：僕は他塾の数学に通っていましたが、その塾では「模試ごとに成績を提出」とか「学習計画を提出」というのがあって、僕は自分で勉強して足りないとこを伸ばす意味で、演習だけを求めて塾に行っていたのに、こういうのは要らないな、と思いました。グノは良い意味で干渉が少なく自由な感じでした。自由に英語の勉強に集中できたのは大きかったです。

佐久間：グノーブルでは自分から求めれば、その場でもメールでも先生がどんどん質問に答えてくださるし、相談にも乗ってくださいます。過去問の添削もどんどんしてくださいました。主体的に勉強する人や積極的に塾を活用したい人にぴったりの塾だと思います。

因間：グノの印象は3つあります。1つ目は、宿題の量が多すぎないことです。そのおかげで、特に学校の委員会の仕事が忙しかった高2も乗り切れました。

2つ目は、毎回の授業が楽しいことです。私はグノの授業が大好きでした。社会だけはグノにはなかった所以他塾のお世話になっていたけれども、グノのような楽しさは感じられませんでした。

3つ目は、授業内の演習です。記憶を定着できるという点では、その場で演習して答案を提出して、すぐに添削してもらえて、解説を聞いて理解するというサイクルが1回の授業でまとまっ

ているのは、とてもありがたかったです。

グノーブルの話題

因間：家では母と姉とグノーブルの話をよくしていました。姉が英語でお世話になっていたのもあって、私も姉もお世話になった先生の話や英文の話で盛り上がっていました。学校では「今日のサミングアップ*はどうだった？」という話をしていました。

佐久間：早稲田の生徒の半分は推薦で早稲田大に行くので、そもそもあまり塾に行きません。そういう環境でしたが、僕はグノの先生の話友達にすることが時々ありました。

本多：駒東にはグノ生が多いので、クラス分けが発表された次の日に「上がった」「落ちた」とみんなで話していました。学校から4人くらいまとまってグノに行くこともあったので、授業の前に「今日のサミングアップは自信あるんだよね」とか話していました。サミングアップとクラス分けの話は家族ともよくしていました。

佐藤：武蔵はそんなにグノーブル生が多い学校ではありませんが、僕はグノーブルが好きだったので、塾選びしている子たちにグノーブルを勧めました。みんな入ってくれて、最初は3人だったのに、最終的には10人くらいになりました。好きな先生とか面白い先生の話や、楽しかった授業のことなどを話して

いました。

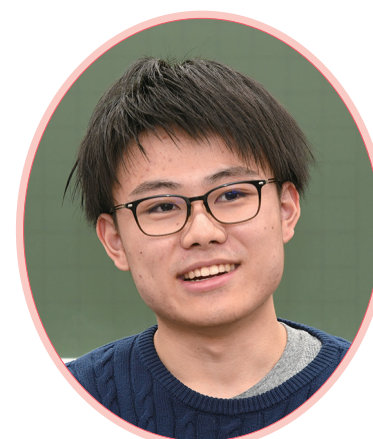
僕はグノーブルの先生たちがすごく好きだったので、親に「こんな先生に教わっている」と映像授業を見せたことがあります。公立高校出身の親は「自分の学校にこんな先生はいなかった。こんな先生に教えていただけるなんて羨ましい」とずっと言っていました。

石村：吉祥女子は他校に比べてグノ生が少なかったけれど、宿題を見せ合って「ここはこうすべきではないか？」と検討し合うこともありました。

うちの家でも、佐藤君と同じで、親が「本当に良い先生だね。私もそんな先生に習いたかった」と言っていたし、私も「今日の授業で先生が面白いことを言っていた」という話をよくしていました。

学校とグノーブルとの両立

石村：グノは宿題の量がほぼ



佐久間 啓さん
(文Ⅱ・早稲田)

どで、学校生活や学校行事を圧迫するほどではなく、しっかり両立できました。振替も授業の直前までHPで簡単にできたり、コロナ禍になってからは映像授業を見ることもできたので、学校の予定が急に入っても必ず授業を受けられました。

佐藤：僕は高校では部活に入っていないくて委員会活動が中心でした。文化祭や体育祭、通年では生徒会の運営の一部を担っていて、学校行事にかなり力を入れていました。でも、振替制度があるおかげで、支障なく学校行事に参加できました。

宿題は適切な量でしたし、音読も集中しても1日1時間くらいで終わるので、そういう意味で学校の授業に支障をきたすこともなく、学校の成績もずっと良好だったので、両立できていたと思います。

本多：僕は部活も学校行事もやりたい学校重視の人間でした。卓球部とクイズ研究会に入っていて、曜日が重なってなくて週5で部活がありました。グノには高2から入ったので、文化祭の実行委員も重なっていて、めちゃくちゃ忙しい時期でした。でも、宿題の量が少なくても効果が上がるのもあって、学校生活も両立しながら円滑に回せました。

うちの学校は体育祭に気合を入れて臨むので、高3の体育祭直前期は塾を休むのが当たり前です。そういう時期も、グノには映像授業があったので、休ん

* スタートダッシュ講座：新中1対象の講座（2～3月に開講）。

* SUMMING-UP LABORATORY：高3の英語（読解）で毎回実施される英文の要約演習。一人ひとりの答案は担当講師が添削・採点して返却。音声教材も完備。知的にレベルの高い「読解力」の土台を築けるばかりではなく、「聴解力」「作文力」「話す力」や「プレゼン力」も鍛えるグノーブル独自の仕組みです。

でも映像で追いつけました。

佐久間：グノは振替も融通が利いて、忙しい高2でも学校と塾の両立は問題ありませんでした。僕はバレー部でしたが、部活に支障なく塾に通えました。定期テスト前もテスト勉強と両立できました。

因問：我が家は「学校の成績が良くないから塾に行くのではなく、まずは学校の成績をしっかりと取りなさい」が方針でした。だから、私は高校の3年間、学校の勉強をしっかりとやって、成績をきちんと取り続けました。それができたということは、逆に言うと、グノとの両立がうまくできていたということでもあると思います。

高2の時は、生徒会の役員の仕事が毎日あって忙しくて大変でした。「グノの授業には絶対に行きたい。宿題もやりたい」と思っていたのですが、間に合わないからといって学校の授業中

に内職はしたくありません。だから、土日を使って時間を確保しました。高2の時に「両立できるのはこんなにすごいことなんだな。グノってありがたいな」と実感しました。忙しい時ほどグノーブルの良さが分かります。

グノーブルの英語

因問：グノで英語の力を伸ばせたので今こうやってここにいられます。中学生の頃は英語が足を引っ張っていたのですが、グノに入ってから自分でもびっくりするくらい伸びました。授業内演習では、限られた時間の中で結構な量の英文を読むことで、受験に必要なスピードも鍛えられるし、語源から学べたので単語などの知識も豊かになります。ただ文章を読んで解説を聞いて終わりではなく、たとえばキリスト教的な背景知識なども同時に教えていただいて、そういうのと一緒に知識を吸収できて覚えやすく、将来教養として身につけておきたいものも同時に習得できました。

佐久間：僕も英語はすごく伸びたと思います。グノでは、英文に構文の印を入れて読んでいくのではなく、英語を英語のまま読めるようになります。最近話題になっているトピックもよく教材になっていたのも、純粋に英文の内容が面白かったです。いろんなジャンルに触れられて、受験英語にとどまらない英語を学べました。

本多：間違いなく伸びました。高3の過去問演習では、東大を受験するにあたって必要となる設問形式を解く力が勝手に養われていて、それに気づいた時にはめちゃくちゃ感激しました。グノの先生が「違う文化なのだから、英単語と日本語がびったり一致することはほぼない」と何度もおっしゃっていました。これは当たり前のことなのに、単語帳の暗記では気づけない視点です。ネイティブのように、日本語を介さずに、英語を英語のまま読んでいく上で非常に役立ちました。

それから、グノは何といても英文の内容が新鮮で面白く、科学的な知見などの教養も養えました。

佐藤：僕も絶対に伸びたと思います。グノーブルの英語の授業は東大受験を超えています。過去問ばかりが教材になっているのではなく、原書から取られた英文もよく授業で扱われました。グノーブルの演習をやっていると、自分は東大受験のレベルには達していても、その先にまだ課題があるんだな、ということが自覚できました。そういう演習を通して力がどんどんついていくのを実感していました。

音読は大学に入ってからでも使えると思います。音読していれば、スピーキング力も必然的に習得できます。耳が鍛えられるという点でGSL*もすごく役に立ちます。

石村：英語自体は小学生の頃から



本多 悠朔さん
(文Ⅰ・駒場東邦)

から力を入れていて、小学生で英検3級を持っていました。でも、品詞の区別や文法事項は曖昧で、そこをグノで教えてもらったことで身につけ、自信になりました。文法は学校で習うよりも先取りしてグノで教わっていたので、学年でもだいぶ上位にいられました。

毎回の教材が様々な分野の英文で、自分で検索しても絶対に見つけられない良質の英文を毎週読めました。これは大学で文献を読む時にも使えると思います。英語がさらに好きになりました。

授業内演習と添削

石村：自分がどこで間違えているのかやミスしやすいところをすぐに教えていただけるので、「次も頑張ろう」という刺激になりましたし、定着もしやすかったです。

佐藤：演習と添削というセット

があるので、毎回の授業の最初は気が引き締まります。当日習ったことをその場で添削していただけて、さらに解説を聞いて理解して、家に帰って音読などの復習をするというサイクルができていて、かなり定着度が高まります。

本多：添削が授業内ですぐに返ってきますが、これほどありがたいことはありません。授業内で当てられる機会が多くて、僕は率先して先生に合図を送って当ててもらおうタイプだったので、結構間違えました。だから、1週間で長文を復習して音読するたびに「この前はここで当てられて間違えたんだ」とへこむけれど、それが「次は正解してやる」とか「ここは二度と間違えないぞ」となって、さらに成長できました。

佐久間：演習が最初にあると、メリハリがしっかりついて切り替えられます。添削で自分は「できた」と思った時にできていなかったり、逆に点数が高くて褒められたりすると、「今日の授業も頑張ろう」というモチベーションにつながりました。常に先生に見てもらえているというのが良かったです。

因問：演習が最初にあるのでスイッチオンになり、集中して授業を受けられます。間違うと「間違ったな」という印象を伴ったまま次に活かします。それから、先生のお話に感動してそれと同時に英文の知識が頭に入ってくることもありました。

「こういう背景があるよ」など知らないことをうかがった時、「そういうことか」と感動して、自分の中でうれしかったことも一緒に吸収できる良さがありました。特に英作文では、自分が見落としがちな小さなミスをその場で返していただけるので、「次回はここで気をつけないといけない」とか「ここをこうしよう」とか、小さな目標を立てながら勉強を進めやすかったです。

英語の勉強方法で良かった点

因問：私は何の関連もない状態で覚えるというのが大っ嫌いで、単語帳も大っ嫌いでした。学校では単語帳を1冊渡されて週に1回単語テストがあったので、それをペースメーカーに勉強するだけで、他の単語帳には一切触れませんでした。学校の同級生が単語帳を持っているので心配だから同じものを買ったけれども、そのまま一度も開かずに捨てました(笑)。グノでは最後まで単語帳が本当に必要なくて、単語帳をやらずに力がついたので、すごくありがたかったです。

先生が「しっかり椅子に座って勉強しなくてもいいから、音読はちゃんとしましょうね」と何度もおっしゃっていました。高3だと、社会などの他の科目に時間を割いて英語がおろそかになりがちだけれど、英語に少しでも触れないと鈍ってくるので、そういう時に音読だけで力がつきました。だから、高3で



佐藤 由啓さん
(文Ⅱ・武蔵)

* Gnoble Sound Laboratory：中1から高3までの6学年すべてに毎週用意されているオリジナル英語音声教材。合理的練習法(ワークアウト)も確立されており、英語が得意なグノーブル生の土台を築いています。

石村 瑠菜さん
(文Ⅲ・吉祥女子)

音読に割く時間が増えました。週1で授業を必死に受けて、2日以内に復習して、それ以降は通学中の電車でGSLを聞いて、そのあとに3～4題のうち好きな2題を持ってきて電車で読むというのを毎日繰り返しました。家で机に向かって英語をやる時間はなかったけれども、そういう時間を作って英語の力をちゃんと伸ばせました。

佐久間：僕も単語帳を使わず、その週に出てきた文章の中から、自分が知らなかった単語に印をつけておいて、それをルーズリーフに書いて覚えていました。そうすると、「この単語はあの文脈の中で出てきたな」となって、単語を覚えられるだけでなく、英文も読めるようになります。

電車の中などの隙間時間に取り組んでいて、電車の中では黙読していました。音読は、受験期の朝にやりました。黙読よりも音読のほうが効果的です。声に出して意識的に読むからだと思っています。

それから、メールの添削を出すと、先生がしっかり返してくださいます。読解の先生は恐ろしいほど返信が速くて、1時間後には返ってきていました。授業の復習がやる気にならない時でも、先生に提出することがモチベーションになりました。

本多：グノの先生の授業は本当にパワフルでしたし、生徒のことをよく見てくださったので、良い緊張感になりました。「絶対に聞き逃さないぞ」という集中力が高まりました。

僕は電車の中でも音読をしていました。「絶対に誰も俺の音読を聞くなよ」と思いながら、マスクをした状態でブツブツ音読していました。音読は返り読みができないので、集中力がめちゃくちゃ要ります。ただ、いつの間にか発音することだけで頭の中がいっぱいになることがあって、そういう時は戻って、意味を理解しながら音読をやり直していました。音読は集中力も養えるし、スピーキング力もリスニング力も読解力も様々な技能が同時に強化されます。

佐藤：基本的に音読は寝る前にやっていました。習った英文を全部音読するようにしていました。GSLはYouTubeで公開されていて、電車の中で使うのに便利でした。スクリプトがついているので、最初リスニングだけで聞き取れない時にさっと取り出してみると、「この文が聞き取れなかったのか」と分かります。YouTubeだと速度を自

由に変えられて、慣れてきたら1.5倍などにして聞くこともできます。リスニングの時は1.5倍、シャドーイングの時は1倍、オーバーラッピングは1.25倍などと自由に使い分けられます。

石村：「単語帳を使わなくていい」というグノの方針が最初は若干不安でした。でも、長文で分からない単語が出てくるたびにその単語を分解して語源から教えていただけて、しかもひとつ単語が出てくるたびにに関連する単語を5つくらい、何回も教えていただいたおかげで、本当に単語帳は使わずに自然と単語が定着しました。先生がよく言語学者の「6回理論」の話をしてくださいました。「同じ単語に6回出合えばなじんでくる」というお話でしたが、本当にそのとおりでした。

読解では、音読との相乗効果で、英語を日本語に変換しないで英語のまま読めるようになりました。ネイティブの英文の書き方や論理構成を把握できるので、音読をさらに英作文やサミングアップにも活用できました。

グノーブルの数学

石村：数学は高1まで、学校の勉強だけで苦手科目でした。高2でグノに入塾して、基本的な解き方をいろいろ身につけたことで、模試の成績が安定しました。

私は高1まで、市販の問題集の解説を見ても「どうしてその解法を思いつくのか？」が疑問

でした。でも、グノでは数学ができる人の思考回路を日本語にまとめたプリントで教えていただけたので、初見の問題にも立ち向かえるようになりました。

高3の9月からはテスト演習になって、80分で4題という本番形式で時間を計って解きます。この時、最初に問題を先読みして「どこから解くか？」という戦略的な部分も身につけられました。

佐藤：僕は高校1年の春から数学を受けました。その当時、僕は数学が苦手ではなかったけれども、ただただ参考書で一对一对の勉強をしていました。グノーブルの数学では、もっと俯瞰的な視点から教えていただきました。「どうしてこういう解答をするのか？」を大きな枠組みで捉えていくので、今までごちゃごちゃしていた頭の中が整理されて、より数学が得意になりました。それまで数学が嫌いだったけれども好きになりました。

佐久間：僕はもともと数学があまり好きではなくて、受験期のテスト演習が始まるまでは「気が向かないな」と思っていました。でも、テスト演習で本番形式になって、毎回テストがあるので、そこから「勉強しないといけない」と思って数学と向き合うようになりました。グノのテキストの問題はすごくレベルが高くて良かったです。

因間：大量に宿題が出るわけではなく、そんなに量を課すわけ

ではないけれども、自分の復習の仕方によってはしっかり力が伸びるのを感じていました。私は数学が好きだけれども、解けないから手をつけない時期がありました。でも、グノの数学のおかげで、最終的には入試でちゃんと解き切れるほど成長しました。

グノの数学は日本語の板書が多いです。「こういう問題がきたらこういう処理をする」という基本的な計算処理が頭に入っている、問題を見た時に「どうしてその解法に至るのか？」というところでつまづきます。グノでは、このような模範解答に書いていない思考について、「どうやったらそこに至るのか？」という頭の使い方にかなり時間を割いて説明してくださいました。それをしっかり復習して、自分でも同じように考えられるようになっていくことで、解けない問題も自然と解けるようになっていきます。そういう日本語の説明というところでも本格的でした。

私はセルフチェックシート*が大好きでした。授業では先生の言葉で説明を受けるけれども、セルフチェックシートでは自分で言語化して書きます。解けた問題も放置せずに「どうして解けたのか？」を言語化するし、解けなかった問題は「こういうふうにして、こういう解法で攻めたけれども、ここで詰まりました」とちゃんと言語化して整理するので、見返した時に

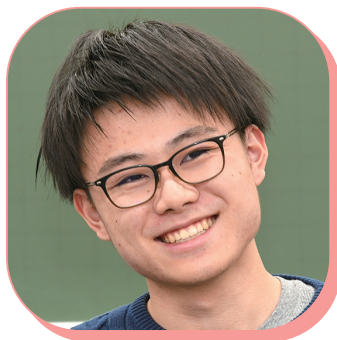
「自分のどういう思考が良くなかったのか？」が一目で分かります。直前期にいろいろな問題を解き直す時、セルフチェックシートも読み直すことで、「ここに気をつけよう」と思えて良い復習の材料になりました。

佐藤：セルフチェックシートは、頭の中で解いている数学を言語化することで、自分の思考回路が見える化されて、「こういう問題はこういうところがない」という数学のロジックの部分を補強できます。自分で書いてみて見える化するのは本当に有効でした。

佐久間：数学では、一度解いた問題がもう一度解けるとは限りません。ただ解法を振り回しているだけだと、その時思いついた解法が次は思いつかないことがあるからです。セルフチェックシートで一度言語化していると、自分の思考回路が言語化されているので、「こういう道筋をたどったんだな」というのが自分に刻み込まれます。その結果、同じ形式の問題がもう一度

因間 円香さん
(文Ⅱ・桜蔭)

*セルフチェックシート：高2文系数学、高3数学で生徒自身が宿題終了後に記入するシート。解けた問題には「どう解いたか」、解けなかった問題には「何ができなかったか」などを記入。自分の傾向や理解度を分析して客観視し、次のステップへとつなげるグノーブル独自のツール。



佐久間 啓さん
(文Ⅱ・早稲田)

出た時に必ず解けるようになります。

石村: 皆さんが言うように、セルフチェックシートで「自分がどういう思考回路で解いたのか？」を言語化して整理できました。そのあとに先生の解説を聞いて、「自分がどういうところでつまづいてしまったのか？」どの論理が不十分だったのか？」を逐一点検できたのが良かったです。先生もセルフチェックシートを見ながら、生徒の理解がどこまで進んでいるのかを確認してください。だから、私たちは痒いところに手が届く授業を受けられました。

グノーブルの国語

石村: 私は高1の古文、高2の現代文、高3の東大国語と漢文の講座を取りました。古文や漢文は基本的な文法事項が十数ページのテキストにまとまっていて、市販の分厚い文法書よりも薄いけれども同じような効果がありました。古文単語もイメージで教えていただいて、単

語帳を一对一で覚えるのとは違い、イメージから膨らませて覚えられました。授業後に原文を現代語訳して採点してもらう“お帰り問題”があって、「自分がどこで間違ったのか？」を見返して改善していくことができました。

佐藤: 僕も高1の古文と高3の東大国語を受けました。古文は夏から入って遅いスタートでしたが、先生方がフォローアップしてくださって、何とか秋からの授業についていくことができました。フォローの手厚さを感じました。石村さんの言うように、古文単語はイメージから学んでいくので覚えやすかったです。お帰り問題では「これを解いて帰るぞ」と気合が入って、次の週に返される時に「どんな感じかな？」とウキウキしました。

東大国語は毎週添削があります。現代文だと自分で「できた」と思ってもできていないことがあるので、解説を聞きながら「どうしたらもっと得点になるのか？」を考えられます。現代文は本文に忠実に書くのが大事です。僕は最初、「奇をてらったように、自分でまとめて書かなければならない」と勘違いしていました。でも、グノの授業のおかげで、本文が分からないなりに忠実にコピーしていく能力というか、点を落とさない書き方が分かりました。

佐久間: 僕は高3の東大国語を取りました。現代文は何をすれ

ばいいのかがよく分からない科目ですが、東大国語に通ってあげば、授業の予習と復習だけで完結します。先生が記述問題を書く上で意識することを教えてください。たとえば、対比を明確にするとか、ニュアンスに気をつけるとかです。こうしたコツをふまえて直前期に過去問演習をすれば、国語は十分に戦えるところまで行けます。

因間: 私も高3の東大国語を取りました。「その時になったら現代文の勉強をしよう」と思って、それまでは古文漢文の単語などの基本的なところを入れる勉強をしていました。実際に授業を受けてみると、すごく温かい雰囲気、一般的な塾のイメージが変わりました。

塾とは思えない楽しい授業でした。先生の体験談を交えた授業が進んでいきます。「協道に逸れたかな？」と思うお話でも必ず本文に戻ってきて、先生のお話をちゃんと聞くことでますます本文の理解が深まるという不思議な感覚がありました。現代文の授業がすごく役に立ちました。

古漢の時は、裏紙を持って行って、分からないところや忘れていた基本的な単語を書き出し、それを直前期に見直しました。基本的な知識が抜けている人はこのように授業を受けるのをおすすめします。

グノーブルの先生

石村: 先生が顔と名前をすぐに一致させて、当てる時もすぐ呼んでくださるので、驚いたと同時にうれしかったです。先生からは授業に対する熱意が伝わってきて、「こちらも集中して演習しよう」と思いました。先生の熱意に応えたい授業でした。

佐藤: 石村さんに同意です。先生方は熱量がすごいし、生徒のことをよく見てくださいます。数学でも、先生は授業内演習の机間巡視で僕のことを見てくださっていて、僕の質問に対して「前回はこういうところでこうなっていた」とアドバイスしてください。先生は計算ミスが多い僕の癖を把握してくださっていたので、とても安心感がありました。

本多: 英語の講習でお世話になった先生のギャグの圧力というか、僕的にはちょっとツボでした。読解の先生の強烈なジェスチャーや熱意のある授業は良



佐藤 由啓さん
(文Ⅱ・武蔵)

い刺激になりました。ジェスチャーは面白くて印象に残るし、感動して「前向きに授業を受けよう」という気持ちになります。作文の先生にはめちゃくちゃ当ててもらえました。だから、めちゃくちゃ緊張感があって、「絶対に間違えないぞ」という気持ちで授業に集中できました。キャラが濃い先生ばかりでした。

佐久間: 個性的な先生が多かったです。先生方は、僕たちを生徒としてというよりも個人として見てくださいます。名前を覚えてくださいますし、「おまえら勉強しろ」という感じではなく、丁寧に大人として接してください。受験は自主性がないとある程度のところに行けないので、グノの先生方のような態度が大事だと思います。

因間: 確かにグノでは「あれや

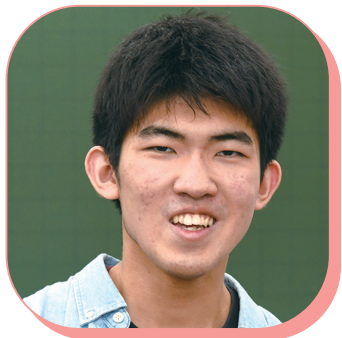
後輩へのアドバイス

石村: 先生が教えてくださったとおりの方で勉強することが大事です。特に英語は「単語帳の丸暗記をしない」とか「過去問は直前に数年分解けばOK」と言われるので不安に感じるかもしれませんが、グノで真面目に授業を受けて復習をしっかりすることで結果がついてきます。また、グノの授業内容は知的好奇心を刺激してくれるので、受験勉強だからといって、「受験勉強しないといけない」というプレッシャーに押し潰されるのではなく、集中しつつも楽しみながら授業を受けてください。

佐藤: 僕もグノーブルを信じ切ることが重要だと思います。僕は英数国全般でグノの授業と教材しか使っていないので、それでも受かるということを伝えたいです。

あとは、全般的な話ですが、入試は自信を持って挑むことが大事です。東大入試ではボーダー付近の成績だとメンタルで合否が決まると言っても過言ではありません。リスニングが聞こえないとか、英語が思うようにいかないとか、そういう時でもメンタルを立て直すところで、「グノでやってきたから大丈夫」と自分に言い聞かせましょう。グノを信じる気持ちが大きく自信につながるの、それが最後には大事になってきます。

本多: 高3になったら、グノの教材が東大の試験形式に役立つ



本多 悠翔さん
(文Ⅰ・駒場東邦)

ことを知っておくと、モチベーションに簡単につながります。もちろんグノでは受験を超えたその先を学んでいることも忘れてはいけません。あとは、英語の学習は絶対に続けなければならない科目であることは間違いありません。「読めるようになったぞ」と思って数学や社会に集中すると途端に読めなくなるので、読めるようになってある程度触れ続けることは意識してほしいポイントです。

佐久間：努力が結果につながらないことがあります。実力というパラメータがもうひとつあって、そこが伸びないと、いくら努力しても結果につながりません。でも、グノの勉強は、英語を英語のまま読むなど、やっているだけで努力が実力につながっていく勉強です。スタンダードなやり方でないので最初は不安に感じるかもしれないけれど、信じ切ってほしいと思います。それから、国立大学が私立大学と違うのは記述を要求されるところです。先生に添削を

メールで出したら記述力が上がるので活用してください。

因間：合格への近道はあまりはっきりあるものではなくて、地道に努力を続けることが一番です。努力の仕方は人それぞれだけれども、限られた時間で東大に合格しようと思うと、正しい努力をうまく積み重ねることが大事です。同じ時間を勉強しても伸びることをやって、それを積み上げていかないと東大合格には手が届きません。グノーブルでは「正しい努力がどういうものか？」をそれぞれの授業で先生方が教えてくださるので、皆さんが言うように、先生方の言葉を信じ切ってください。

グノの授業は主体的に参加することが大事です。先生から教えていただいたことを実践するのはもちろんですが、自分なりの勉強の仕方を自分でよく考えて、勉強方法やスケジュールを立ててしっかり実践していくことで、実力が上がっていきます。先が見えなくて急に不安になった時は、一人ひとりのことを良く分かってくださる先生に相談すると、本当に親身にアドバイスをくださいます。そうすれば、漠然とした不安に駆られて焦る良くない心理的マイナス面も防

げます。本当にいい先生方ばかりなので、困った時は迷わず相談するなど、自分なりにうまく利用してください。

人それぞれ勉強の仕方があると思うので、自分に合ったやり方を見つければ、グノの授業は真面目に聞いて、勉強を頑張ってくださいと思います。

中学受験グノーブル山下先生から石村瑠菜さんへ

石村さん。合格おめでとう。とても懐かしいです。国語は得意教科だったと記憶しています。私は5年生から担当しましたが、6年生の後半期の成長具合は誰もその勢いを止められないといった観がありました。実際に当時の答案を今見直してみましたが、やはり大したものですね。書いてほしいことをびっしりと記述しきる力に目がくらむ思いすらします。こうした国語の力が石村さんのより大きな成長の源泉になったのであろうと思います。感慨にふけることができました。

東京大学 文系 Part3

はしづめ ゆう き
橋爪 佑季さん (文Ⅱ・駒場東邦)

わしの もえ か
鷲野 萌花さん (文Ⅱ・渋谷教育学園渋谷)

グノーブル入塾のきっかけ

鷲野：高校2年まで別の英語塾に通っていたけれど、東大などの難関大学を目指す上で、先輩に相談したら「グノーブルがいいよ」と勧められました。冬期講習から入塾しました。

橋爪：僕は高2の春から英語を受講しました。高1から他の塾で英語や数学を学んでいたんですが、英語だけ成績が上がっていませんでした。その塾は、授業の前にたくさん予習をした内容が授業で淡々と解説されるだけで、面白くありませんでした。

一方、グノーブルには同じ学校の友人がたくさん楽しそうに通っていました。「文法が弱い」という自覚があった僕は、英文法もネイティブの感覚を軸にして丁寧に説明してもらえると友達から聞いてグノーブルに決めました。

グノーブルの印象

橋爪：他の塾と比べて、グノーブルは先生と生徒のやりとりで

授業が進んでいって、親しみやすい雰囲気がありました。先生方も1回の授業でほぼ全員の名前を覚えていてすごいと思いました。

振替が簡単にできて融通が利く点もグノの特長です。部活が6時までであっても、7時からグノーブルの授業に通うことが可能で、便利でした。

鷲野：他塾だと主に大学の過去問を使って、「ここが主語ですよ」などと、英文に印を書き込

んだりするように指示されます。グノーブルで重視されるのは、英語の語順のまま英文を読むことを意識することです。グノーブルはいわゆる受験のためだけの英語ではありません。扱っている英文も、過去問が教材になっていることもあります。それよりも、いろんな書籍やニュースから選ばれているので、ためになったり面白かったりして、それが良い点です。

学校でのグノーブル

鷲野：渋谷にはグノーブル生が30人くらいいたので、難しかった英文を学校に持って行って、休み時間や放課後に友達と一緒に教えてもらったりしていました。「先生がこんなことを言っていた」という話題でも盛り上がりました。

橋爪：僕の学校も同じ感じで、グノーブルで扱った長文について話すことが多かったです。グノーブルの授業が渋谷であった時、帰りの電車が同じ友達がいって、その日のサミングアップ*



橋爪 佑季さん
(文Ⅱ・駒場東邦)

* SUMMING-UP LABORATORY：高3の英語（読解）で毎回実施される英文の要約演習。一人ひとりの答案は担当講師が添削・採点して返却。音声教材も完備。知的にレベルの高い「読解力」の土台を築けるばかりではなく、「読解力」「作文力」「話す力」や「プレゼン力」も鍛えるグノーブル独自の仕組みです。

について話したり、難しかったところを共感し合ったりしました。

家では、指名された問題でうまく答えられた時やサミングアップの点数が一番だった時、家族に自慢していました（笑）。

学校とグノーブルとの両立

橋爪：本当に両立できていたと思います。その要因は、振替ができることと宿題が多くないことの2点です。高2の時は後コマをよく利用していました。駒東は高3の5月に体育祭があって、それを高3がメインで引張ります。準備に迫られますが、そうした中でも振替で曜日をずらして、体育祭に力を入れたグノーブルの勉強も良い感じで進められました。自分だけでなく駒東の生徒全体で見ても両立できていました。

鷺野：私も両立できました。宿題も週に2～3時間分くらいしかなかったですし、映像授業も見られたので便利でした。渋谷は高3でも9月の学園祭に参加できます。全員参加でなく、参加したければそれでもいいのですが、私はバリバリ参加しました。それでも、塾との両立が大変なことはありませんでした。

グノーブルの英語

鷺野：英語は好きでしたが、得意というほどではありませんでした。私の学校だと、帰国子女が多いし、帰国子女でなくても海外経験があって英語ができる

隠れ帰国生みたいな人もいます。だから、私は一般の中だったら英語ができるけれど、学校内では飛び抜けていませんでした。その人たちを超えられたかどうかは分かりません。でも、グノーブルで前から読むことを意識して音読していたら速読の力もついたので、通う前よりも英語をスラスラ読めるようになりました。

グノーブルの英文の内容は学術的なものも多くありました。大学でもそういう文章を読んでいくでしょうから、その前に慣れることができたと思います。

橋爪：僕はもともと英語に苦手意識を持っていました。他の塾に通っていた頃は、予習がすごい量で、それをなんとか頑張ってこなして授業に臨んでも、その授業がつまらないという最悪の状況でした。

でも、グノーブルに入ったら、授業の準備も少なくてすむし、軽い気持ちで教室に入ることができました。さらに英文の内容も楽しく、授業もフレンドリーで、楽しく習い事に通っているという雰囲気でした。おかげで、段々と英語嫌いから脱して好きになっていました。

グノーブルで学んだことは役立つものしかありません。特に、語源や語根から意味を推測することを学べたことと、語順のまま解釈するのが習慣化できたことです。これから他の言語を第二外国語として学ぶ時にも生きてくると思います。



鷺野 萌花さん
(文Ⅱ・渋谷教育学園渋谷)

鷺野：橋爪君と同じで、グノーブルでの学びには役に立つことしかありませんでした。中でも役に立ったと思うのは、音読などの音声系教材です。初めは音読してもたどたどしかったけれど、段々とスラスラ読めるようになっていって、文章を速読できるように変わっていききました。

すぐに英文を頭から読めるようになったわけではありません。1回だけ音読してもダメで、繰り返しやる必要があります。音読を2周3周すると、文章が染みついてきますし、耳からも音が入ってくるから印象に残りやすいです。これを習慣化して継続していると英語の感覚がどんどん育っていきます。

英語感覚が身についてくると、グノーブルで扱った英文を楽しんで音読するだけで復習になります。コスパも最高です。

橋爪：僕はお風呂上がりのルーティンで音読していました。

11時や12時にお風呂に入ってお風呂上がりのさっぱりしている時、耳が濡れていてイヤホンだと無理なので、ソファに座って、スマホから直に音を出して、そこでサミングアップを前から順番に音声に合わせて読みました。

ゲームみたいな気持ちがあって、途中で詰まると悔しくて、最初から最後までつかえずに音声と同じスピードで読めるようになるまで寝ないというのをやっていました。30分から1時間かかりますが、ゲームのタスクをクリアするみたいな感じで、つかえるとムシャクシャするから「全部やってしまおう」となりました。

音読していると、先生の言葉が蘇ってきて、「ここはこういう構造だから、ここまではひとつのまとまりだね」と構造が見えてきます。段々と英語の論理展開に慣れていけるのです。前からスラスラ構造を取れるようになるので、その英文だけでなく他の英文にも応用できるような、全体を俯瞰する力を養えました。

英語の授業で大きかったのは、先生と生徒の距離が近く、対面でもメールでも気軽に質問できたことです。授業中に当てられるのも良かったです。先生に当てられるかもしれないから、「ちゃんとした答案を作らないといけない」という気持ちが湧いてきます。自分の持てるすべてを、ベストを尽くして出せば

した。

高3の途中から、解釈が難しい箇所になると先生が、「この解釈を誰かしてくれませんか？」と聞いてくるようになりました。自分から手を挙げないと当ててもらえません。僕としては、当てられないとグノーの授業に来た感じがなくて、気合を入れて手を挙げていました。ますます授業に主体的に参加できるようになりました。

それから、演習時間が決まっています。それを目安に、本番のような緊張感を持って取り組みました。「最善の答案を作り上げよう」という本番の試験みたいな気持ちでした。

鷺野：私も大体同じで、先生との距離の近さを感じていました。直前期の添削ではどんなに夜遅い時間に提出してもすぐに対応していただきました。慶應の経済を受けた時、作文の添削をギリギリに出したにもかかわらず、当日の朝、間に合うように返してください、先生の熱意に感動



橋爪 佑季さん
(文Ⅱ・駒場東邦)

しました。返ってきた添削に「大丈夫なので頑張ってください」というメッセージもあって、とてもうれしくなりました。

授業内演習のメリット

鷺野：サミングアップはすぐに返ってきて、10点満点で8点以上だとうれしくなります。演習時間がかかなりタイトで緊張感があり、隣で一緒に勉強している人の存在も刺激になりました。同じ学校の人もいたので「負けたくない」と思っていました。

橋爪：演習は本番みたいで良かったです。やっている問題も東大つぼくて、最初はサミングアップですし、2枚目は段落整序や文整序です。それが東大の英語の1Aと1Bに相当する内容だったので東大の入試を意識しながら解いていました。しかも、演習の時間まできちんと設定されているので、そのまま本番の時間配分に活かしやすかったです。東大入試に直結する内容と時間設定だったと思います。

グノーブルの国語

鷺野：通年で取っていたわけではなく、高2で季節講習を取って、高3ではチームごとに古文や現代文を受講しました。国語は、手がかかるけれど、塾に行きづらい科目です。だから、必要な分野だけ選択的に取れるのは、他の科目にも時間をかけたい受験期には便利で魅力的でした。

何より高3の東大国語の先生が本当に良かったです。先生は

難解な文章なのにとっても分かりやすい具体例を出してくださって、「何だ、こんなことか」となることがよくありました。

たとえば、漢文で「法が厳しすぎると国民は抜け道を探すから、逆に厳しすぎる法はダメ」という話があって、先生が「厳しすぎる校則だと、みんな抜け道を探してやりなくなっちゃうよね」という具体例を出してくださいました。難しい題材も、私たちが身近に感じるところまで落とし込んで説明してくださって、とても分かりやすかったです。

それから、過去問の添削は自分では難しいですが、先生に添削をお願いすることができました。

グノーブルの先生

鷲野：どの先生もすごくフレンドリーに接してくださいましたし、熱意にもあふれていました。特に印象に残っているのは読解の先生で、「演習や練習でうまくいかなかったり間違ったりしたことは全部プラスにしかありません。課題が浮き彫りになったのだから、そこを克服していけば目に覚えて実力を上げられるのだから、絶対に前向きに」といつもおっしゃっていました。英語だけでなく、数学の過去問で酷い点数を取った時にも、この言葉を思い出して励まされました。

橋爪：同じです。どの先生もすぐに名前を覚えてくださって、



鷲野 萌花さん
(文Ⅱ・渋谷教育学園渋谷)

本当に近い間柄みたいな感じで、フレンドリーで良かったです。先生のエネルギーに満ちている授業には、駒東のグノーブル生はみんな刺激を受けていました。本当に素晴らしい授業でした。腕を骨折しても、1か月くらい包帯グルグル巻きなのに、一度も授業を欠かさなかった先生もいらっしゃいました。

先ほど鷲野さんが言っていたように、夜遅くに先生にメールしてもすぐに返ってきて、本当に熱心で、生徒のために心をくだいてくださる先生ばかりでした。

後輩へのアドバイス

鷲野：グノーブルは授業や教材がそろっているから、あとは自分が音読や授業の復習をきちんとやれば、自然と力が伸びていきます。最後まで自分とグノーブルを信じて頑張ってください。私は夏前にクラスが1個落ちたけれど、そういう時も諦めずにやっていたら、夏のテストでまたクラスが戻りました。クラス

が落ちてでもめげないでほしいと思います。

これは東大の話ですが、東大は二次勝負です。私は共通テストで点数が取れず760点くらいでした。でも、メンタルが妙に安定していて、「もっと悪くなりそうなところをここで持ちこたえたんだから、良かったんじゃないか」という考えができたから、二次もうまく乗り越えられました。メンタルを気丈に、ポジティブに保って、最後まで諦めないでください。

橋爪：後輩たちには音読とそれも含めた復習を頑張してほしいと思います。鷲野さんの言うとおり、教材はそろっているのだからあとは自分がやるだけです。そうするためにも、授業内容をどこにメモするのか工夫しましょう。メモするところは指定されていないので、プリントにチャチャッとメモしている人が多いです。でも、僕はメモ帳を作っていて、そこに板書を写したりしていました。このメモ帳が持ち運びしやすく、単語も復習できて、便利でした。

それから、僕も共通テストが苦手で760点くらいでした。でも、ポジティブに捉えられたのは、読解の先生の添削で良くなかった時にいつも「粘り強く！」と書いてあったからです。東大は二次勝負なので、本当に粘り強く諦めない心が大事です。

17期生 合格者インタビュー

東京大学

理系

座談会出席者 (五十音順、本文中敬称略)

Part 1



飯島 悠季奈さん
(理Ⅱ・渋谷教育学園渋谷)



小澤 美悠さん
(理Ⅱ・豊岡女子学園)



田畑 遼さん
(理Ⅲ・暁星)

Part 2



岡本 陽資さん*
(東京医科歯科大医・駒場東邦)



佐藤 大地さん
(理Ⅰ・駒場東邦)



田邊 志保さん
(理Ⅱ・浦和明の星女子)

*岡本さんはインタビュー日程の都合により、こちらの回に出席していただきました。

Part 3



小花 栄貴さん
(理Ⅰ・開成)



水野 僚介さん
(理Ⅰ・麻布)

東京大学 理系 Part1

いいじま ゆきな
飯島 悠季奈さん (理Ⅱ・渋谷教育学園渋谷)

おざわ みゆ
小澤 美悠さん (理Ⅱ・豊島岡女子学園)

たばた りょう
田畑 遼さん (理Ⅲ・暁星)

グノーブル入塾のきっかけ

田畑：中学生の時、母に「行きなさい」と言われて入塾しました。それまでは特に塾に通っていませんでした。あまり前向きな気持ちにはなれませんでした。

小澤：私は豊島に入学を決めた時点で塾に通うつもりはありませんでした。豊島の先輩は「塾に行かなくても、学校の学びで大学受験も十分戦えるよ」とおっしゃっていたし、先生もそういう感じだったからです。でも、中1で英語にほぼ初めて触れた時、他の科目と感覚が違って、「これはヤバいかも。このままにしておいたら、良くない方向に行くかもしれない」と不安になりました。だから、中1の終わり頃から、英語に通いたいという目的で塾を探しました。

最初からグノーブルと決めていたり、知っていたわけではありません。ただ、「英語」で塾を検索するとグノーブルがいつも

上がってきました。英語の評判が良いことや、HPに掲載されていた合格者の声の内容が好印象でした。グノーブルの授業や先生方に対する先輩方の思いを知り、それらの文章を読んだ時、中学受験を思い出しました。中学受験でも先生方に感謝や信頼があったので、それと似たものを感じ、「そういう塾に通ってみたいし、そういう先生に教わりたいな」と思って、中2から英語でグノーブルに入塾することを決めました。

飯島：中学受験もグノーブルに通っていました。中学受験では、難関校を目指す受験生が集まる塾があります。ただ、その塾は、課題が多そうで、周りの子たちも大変そうでした。一方、グノはその塾と同じくらい優秀な先生がそろっていて、課題の量も少なめで効率的な授業をしてくれるという評判を聞いて、「グノーブルがいいな」と思いました。

中学受験が終わったあとは、

塾には行かず部活を頑張っていました。高校に上がると、塾に行く人が増えて、私も「また塾へ行こう」と思いました。ただ、他塾は忙しそうだし、部活も続けたかったので、「中学受験でお世話になったグノなら大丈夫だろう」と思って、そんなに迷わずグノに決めました。グノに行っている先輩がいたのも大きかったです。

先生とやりとりしながら進む



飯島 悠季奈さん
(理Ⅱ・渋谷教育学園渋谷)

授業なので受け身にならないとか、部活とも無理なく両立できるとか、グノのスタイルが私には合っていました。

グノーブルに通ってみた印象

飯島：グノはGSL^{*1}を使った音読などの効率的な勉強法が特徴的で、量で押し切らない感じがあります。音読すると読む力や単語力が同時に身につくので効率が良いです。

数学も「いっぱいやれ」ではなく、「こういう問題だったらこう対処しよう」と体系的に教えてくれて、回り道せずに済みました。効率的に勉強する指針を示してもらえたのが、私に合っていました。

小澤：高2の時、学校生活でもやるが多かったのですが、グノーブルは費用対効果が高いと思っていました。宿題の量や課せられるものが多くないけれど、与えられたものをちゃんとやって復習していれば力がつきました。

田畑：グノの受験受験していない雰囲気が良かったと思います。受験に特化して「東大に受かるのが正義」みたいな雰囲気はグノにはなくて、英語力をつけていく通過点に大学受験が位置づけられていました。

学校でのグノーブルの話題

田畑：学校で席が1個前の友人がグノに通っていました。グノでは復習の特長は音読で、その

やり方だと英語の内容が頭に残りやすいんです。グノで扱う英文の内容は面白いし、それで、友人と話す時も英文の内容を話題にすることが多かったです。

小澤：私も、グノに英語や数学で通っていた友達と学校で話すことがありました。グノの英語では、ある週のサミングアップ^{*2}の中でサラッと触れられた単語が、次の週の長文で重要な位置で出てくることがあります。こちらがきちんと復習して身につけていれば、1週間後は記憶が残っていて、その単語を使うことができます。このように定着がより深くなることが何度かあって、「それがすごい」と友達と話していました。

数学も「この問題にはこう」という、いろんなところで通用するアプローチを教えてください。グノーブル内でそれが通用するだけでなく、学校で解く問題にもちゃんと使えるので、「これもすごい」と友達と話しました。

飯島：うちの学校は英語でグノに通っている人が多くて、特に渋谷校は半分くらいが渋谷生みたいな回もありました。だから、先生の話などで友達と結構盛り上がりました。「これグノでやったね」というのもあって、友達と共通の話題になっていました。

家庭内では、弟が中学受験でグノーブルに通っていたので、その話をしました。



小澤 美悠さん
(理Ⅱ・豊島岡女子学園)

学校とグノーブルとの両立

飯島：全然問題なくできました。振替制度がスムーズで、受付の方は直前にお願いしても嫌な顔ひとつせず振り替えに応じてくださるので、とても使いやすかったです。

それから、私たちが高校生になった時から映像授業が始まって、どの日も授業に行けなくても、映像を見れば次の週に遅れないですみました。高2までは、どうしても授業に行けない時に結構利用しました。

小澤：私も同じです。期末テストの2日前に「塾へ行かなければいけない」と言っている他塾の友達もいましたが、グノはそういうことはありませんでした。グノでは、学校行事で行けなかったり忙しかったりする週や、期末や中間の前に自分の学校の勉強をしたい時、振替制度で日

^{*1} Gno-let Sound Laboratory：中1から高3までの6学年すべてに毎週用意されているオリジナル英語音声教材。合理的練習法（ワークアウト）も確立されており、英語が得意なグノーブル生の土台を築いています。
^{*2} SUMMING-UP LABORATORY：高3の英語（読解）で毎回実施される英文の要約演習。一人ひとりの答案は担当講師が添削・採点して返却。音声教材も完備。知的にレベルの高い「読解力」の土台を築けるばかりではなく、「聴解力」「作文力」「話す力」や「プレゼン力」も鍛えるグノーブル独自の仕組みです。



田畑 遼さん
(理Ⅲ・暁星)

にちをずらせるのでありがたかったです。高2までは、本当に塾に行けない時、映像授業もちょくちょく使わせてもらいました。

学校生活との両立かどうかは分からないんですが、授業の教材はプリントや薄い冊子なので、持ち運びやすいのがありがたかったです。「なんでこんなに重いのか？」というくらい重い学校教材とは対照的でした。

田畑：僕も陸上部で結構忙しかったので振替は助かりました。高2は前コマと後コマを選べて、後コマだと部活の練習後に行けました。

グノーブルの英語

田畑：先生がよく「返り読みしないで、英語の語順のまま、内容を生き生きと頭の中でイメージしながら読んでいく」とおっしゃっていました。これを実践していたら英語を英語のまま処理

する能力が確実に伸びました。処理スピードも上がりましたし、内容理解も深くなって、設問への対応力も上がりました。

小澤：私の英語は完全にグノに伸ばしていただきました。高3の時の記憶が一番濃くて、読解の先生が毎週のように「迫真の演技で音読したら絶対に伸びるから」と力を込めて発言なさっていたのを覚えています。これを受けて「音読をやるしかないな」と思いました。高3になってちゃんと音読が習慣化した時、読む力もリスニングの力も変化しました。

グノでは、日本語で読んでもちゃんと分かるが怪しいくらいレベルの高いものを教材として用意してくださいました。自分で演習している時は理解できなくても、先生が英文の背景的なことまで解説してくださるので、理解が深まりました。しっかり理解できた英文を音読して復習していくことで、どんどん深いものも英語で読めるようになっていくし、内容自体も人としての教養につながるものが本当に多かったです。

飯島：高1の春、EGGS*からの入室でしたが、英語は本当に伸びました。もちろん音読が一番の理由ですが、私が大きかったと思うのは、授業中に時間制限を設けられた中で大量の英文を読んだことです。素早く要点を抑えながら英文を読む訓練ができました。長文読解が宿題だと、自分都合でゆっくり読んで

しまうので実戦力は養われなかったと思います。

グノで用意される英文教材は本当に新鮮で、いろんな話題が扱われました。私は自分から好んでニュースを見るわけではないので、他の人と話していると「何その話？」となるのがよくあります。でも、グノで読んだ文章のおかげで、「これ知ってる」となることが増えて、とても役立ちました。

しかもグノで扱う英文は読み応えがありました。体系的な話題も文系的な話題も高度な内容が教材になっていて、解説を聞いていると面白さがどんどん増していく英文を、1回の授業でたくさん扱いました。そんなグノでやってきたんだから「絶対に大丈夫！」と、本番には自信を持って臨むことができました。

グノーブルの勉強方法

飯島：周りの子たちが単語帳の暗記をやっている中で私は1回も単語帳を使ったことがありません。グノの特長は、語源から単語が説明されることと、扱った英文の文脈と一緒に単語を覚えていくことです。グノの3年間で、私も不安なく受験できる単語力がついたので、グノに通っている後輩たちもグノを信じてきちんとやっていれば大丈夫です。

小澤：私も単語帳は自分から「これを全部覚えるぞ」という感じでやったことはありません。学校で小テストがあるので、そ

の範囲の単語帳はやらないといけなくて、その時に一過性で覚えたくらいです。あとは、グノの授業で先生が語源から説明して、他の単語とも関連させて板書してくださったものを写したノートを自分の単語帳として最後まで使っていました。

学校の授業では長文を読む時、「SVOCを探してみてください」と言われるなど、英文の構造について問われながら進んでいくことが多かったです。一方、グノでは英語の語順のまま解釈していくやり方が徹底されていました。

田畑：読解の先生がしつこく「音読」とおっしゃっていたし、その話には説得力もあったので僕も音読を始めました。そのおかげで、英文を前から読めるようになりました。英語の語順のまま前から読んでいって解釈して、段落ごとに内容をつかんでいく読み方が身につきました。音読していると戻れないので、それなりに時間はかかりましたが、音読していくうちに



飯島 悠季奈さん
(理Ⅱ・渋谷教育学園渋谷)

英語らしい読み方に慣れていきました。

グノの指導法は、英語を日本語で処理するのではなくて、英語のまま処理していく力を養う方法です。単語帳の暗記も、英単語を日本語に対応させた覚え方です。友達が単語帳を使っているのを見ても、「僕は単語帳を使わなくていいのかな？」という不安より、「やらなくていいんだ、ラッキー！」みたいな気持ちでうまく受験を乗り切れました。

授業内の演習と添削

田畑：作文の先生の添削が異様に速くて感動していました。夏期講習で3枚出してもその授業中に返ってきました。返却は1週間後とかになると、1週間前に自分が書いた時の気持ちも内容も覚えていません。一方、グノの授業では、その場で書いてその場で解説を受けられるのが良かったです。

小澤：家で一人でやっているのと、授業中にみんなと一緒に同じ教室で時間制限がある中でやっているのだと、演習の効果が違います。作文も要約も、たとえば自分で問題集を買って自分で答えを見るよりも、先生に提出するほうが、真剣に取り組めます。先生に見てもらえると課題もよく分かります。自分だけで解答例と照らし合わせるのとは効果が全然違います。先生から「粘り強く」とか励ましの言葉を書いてもらったりお褒め

の言葉を書いてもらったりする効果も大きいです。

飯島：私もお二人と同じで、添削された答案が手元にある状態で解説を聞くことができるのがすごく良かったと思います。

グノーブルの数学

飯島：学校だと、解説の時間は「どうやって解くか？」がメインになって、「これはこうやって、次はこうすれば答えが出るよ」というのが多くなりがちです。一方、グノの授業では「どうやってその考え方にたどり着くか？」に時間をかけてくださいました。プリントもただ解法が書かれているのではなくて、「どうやったらその発想になるか？」をいろんな角度から書いてくださって、「どうして自分がそれを思いつけなかったのか？」を知ることができるので、次に活かしやすかったです。

小澤：自分が解けなかった問題の解説で、「言っていることは分かるけれども、なんでこれを思いつくのか？なんでこの解法になるのか？」が分からないことが多々あります。グノの数学ではそういうことがなくて、ちゃんと一つひとつそのやり方に根拠を持たせてくれます。解法の1個上に「こういう時にこういうことをやるんだよ」みたいなのがいくつかあって、それらをちゃんと提示してくださる授業でした。1個ずつ腑に落ちながら勉強できるのが他との違いで、グノのすごいところですよ。

* English Grammar Green Session for newcomers : 季節講習 (中3冬期～新高3冬期) で行われる、基礎力を固めたい方を対象にした、独自のメソッドによる英文法基礎講座



小澤 美悠さん
(理Ⅱ・豊島岡女子学園)

私は、間違っただけを細かく分析しないで次に行くタイプでした。でも、セルフチェックシート*があったことで、嫌でも自分の間違いと向き合わなければならぬので、間違いをちゃんと分析して、次に活かすための大事な段階を踏ませてもらいました。

演習では、「演習の中で自分がこの問題に何分かけたか？」を書く欄があって、「自分が何分かけた問題に対して、このくらいしか点数が取れなかった」「これしか書けなかったけれど、最初を書けば点数をもらえるんだな」など、やったこととそれに応じて出た結果を比べる材料になりました。数学以外でも時間を計ることを意識するようになって、他の教科にも応用しました。グノの数学も本当に良かったです。

飯島: 数学をロジカルに考えられるようになるツールがセルフチェックシートです。書いているうちに、「あれ？ この前も同じことを書いたぞ」というこ

とが度々あって、ミスをしやすいポイントを明らかにできます。そして、自分がどういう考え方をするのか、傾向を意識化でき同じようなミスを繰り返さなくなりました。セルフチェックシートは本当に役立ちました。グノは、英語の良さがクローズアップされがちですが、数学もとても良かったです。

グノープルの古文

小澤: 古文を1年間お世話になりました。学校の授業だけだと手薄だったので「怖いな」と思って受講しましたが、古文の先生のパッションと面白さに圧倒されました。いろんな知識や背景の説明が面白く入りやすい授業でした。古文単語も、ただ単語帳で暗記するのではなく、英語と同じく語源から説明していただけて、1週間の量も少ないので、本当に驚くくらいスツと入っていききました。古文単語を覚えることに苦を感じませんでした。

毎週、授業の最後に全訳を書いて先生に出して、次の週までに添削してもらえます。自分の勉強や学校の授業で全訳を書く

ことはそんなにやらなかったもので、どんどん古文に慣れていきました。

グノープルの先生

田畑: 皆さん名前を覚えるのが異常に速いです。初回の授業で僕らが演習している時、先生が席と名前を書いた紙を照らし合わせて一生懸命覚えていらっしゃるのに気がつき、「そこまでして僕らの名前を覚えているんだな」と印象に残っています。こうした先生方の姿が勉強のモチベーションにもつながりました。

小澤: どの教科も熱を持って授業をしてくださる先生ばかりでした。数学の先生はめちゃくちゃ汗をかいて、熱い授業をしてくださいました。古文も、先生が笑顔で熱がこもった授業だったので、こちらもそれに吸い込まれてやる気が出ました。

飯島: 同感です。ほぼ全員延長してくださって、それでも喋り足りないくらいの勢いで全員授業をしてくださったので、本当に教えられることは全部教えていただいた感じです。

中学受験グノープル兵頭先生から飯島悠季奈さんへ

授業を楽しそうに受けていた姿がとても印象に残っています。国語においては、当初、記述問題をはじめ様々な問の解き方にあまり慣れていなかったのが苦労されていましたが、入試が近づくにつれてどんどん力をつけ、しっかり得点できる科目にまで仕上げていったのは圧巻でした。もともと理解力が高い上に、積極的に取り組まれていたのですから、力が伸びたのも必然と言えるでしょう。これからの生活でも、自分が楽しむことと積極性を忘れずにいてほしいと思います。



田畑 遼さん
(理Ⅲ・暁星)

とても合っている塾でした。量を押し付けないのがグノの特長だったように思います。中学受験グノープルから大学受験グノープルまでお世話になって本当に良かったです。

後輩へのアドバイス

田畑: 英語は直前期までグノの復習と学校の授業だけでやっていました。英語に限った話ではありませんが、いろんなものに手を出さずに絞ってやるのが良いと思います。

小澤: 英語も数学も、グノでやったことをちゃんと身につけて、宿題もやっていれば、自然と流れに乗って力がついていくし、自然と東大の入試問題に対応できる自分になっているはずです。先生を信じてちゃんといいていくことが大切です。

飯島: 「1日13時間勉強した」という話を聞くと焦るけれど、「自分はこれをやらなければならない」と思ったものさえこなしておけば問題ありません。他人の勉強時間や勉強量と比較して焦ってはいけません。睡眠時間を削って勉強するのは正直意味がないと思うので、自分が「これをやる」と決めたことをやり抜くことがどの教科でも大事です。

振り返ってみて、グノは私に

*セルフチェックシート：高2文系数学、高3数学で生徒自身が宿題終了後に記入するシート。解けた問題には「どう解いたか」、解けなかった問題には「何ができなかったか」などを記入。自分の傾向や理解度を分析して客観視し、次のステップへとつなげるグノープル独自のツール。

東京大学 理系 Part2

おかもと ようすけ
岡本 陽資さん (東京医科歯科大医・駒場東邦)

さとう だい ち
佐藤 大地さん (理Ⅰ・駒場東邦)

たなべ し ほ
田邊 志保さん (理Ⅱ・浦和明の星女子)

医学部受験のきっかけ

岡本: 高校の初めの頃までは工学部と医学部で迷っていました。「人のためになる仕事ができればいいな」という漠然とした気持ちがあって、「その形はどんな形でもいい」と思っていたからです。中学3年の12月に父親の仕事の都合でイギリスで1年間過ごしました。この時はコロナパンデミックの時期と重なって、イギリスでも新型コロナ

ナウイルスと闘っている医療関係者の姿が連日テレビやラジオで報道されていました。この経験が医者に関心を抱くひとつのきっかけになりました。

面接については、僕はコミュニケーション能力には少し自信があって、「面接対策しなければいけない」という気持ちは強くありませんでした。でも、自分の中でひとつの理想となる医師像を持っておくのは面接を受ける上で重要だと思っていました。僕は臨床にも研究にも興味があります。でも、面接の時は具体的に医師像を決めておくと、実際に教授に話を聞かれても矛盾なく一貫した答えになると思います。

医科歯科の面接は数分で終わりました。僕が聞かれたのは、医科歯科を選んだ理由、医師を目指したきっかけ、高校時代に打ち込んだことの3つだけでした。

グノーブル入塾のきっかけ

岡本: 高2の4月にイギリスか

ら帰国して、英語の能力を落とさないためにも塾に入ることは決めていました。いろいろ候補がありましたが、グノーブルともうひとつの塾の試験を受けてどちらかにするつもりでした。友達の話聞いて、グノーブルに本質理解のイメージを抱いたので、自分に合っていると感じてグノーブルにしました。

田邊: 中2の最後ぐらいに入塾しました。周りの子が段々と塾に通い始めて、私も「そろそろ塾に入ったほうがいいんじゃないかな?」と思って、自分の意志で塾を探しました。グノーブルは「英語がすごい」という評判があって、先生と生徒の距離感が近いという印象も受けたので、「楽しく勉強できたらいいな」と思って英語と数学で入りました。

佐藤: 中学の頃までは「塾に行かないで受験しよう」と決めていました。でも、どんどん部活に傾注していくに従って勉強から遠ざかり、高2の夏ぐらいに勉強が全然できなくなって焦り

ました。部活を引退してから「どこかの塾に入ろう」と思って、高2の冬から英数で入塾しました。一番まずかったのが英語だったので、他の駒東生がいて、英語の評判がかなり良いグノーブルを選びました。

グノーブルの印象

佐藤: とにかく先生が僕たち、生徒のことをしっかり丁寧に見てくださるすごく温かい塾です。1年間ちょっとしか通ってはいけれど楽しく学べました。他教科でも他塾には通いませんでした。

田邊: 生徒と先生の距離感が近いのを実感しました。1回しか受けていない授業の先生が名前を覚えてくださって驚いたほどです。授業もただガッツリ暗記して勉強するのではなく、楽しく考えながら思考力を養っている内容でした。私も他塾には通っていません。

岡本: 先生とのコミュニケーションがいっぱいできる塾でした。僕には、受け身で授業を聞くよりも、自分から積極的に授業に参加できるほうが向いています。毎回の授業で、取り組んだ宿題や授業内で解いた演習問題の答えを先生がただ説明するだけでなく、生徒とやりとりしながら解説が進むので、自分も授業に参加していると思えました。自分の答えが合っていたらうれしいし、間違っていたら「マジか?」となります。気持ちまで大きく動く知識も定着し



佐藤 大地さん
(理Ⅰ・駒場東邦)

やすく学ぶのに適した環境でした。

それから、グノーブルは、意味のないことを大量に暗記することを強いることはありません。納得した上で知っておきたい気持ちでグノーブルの授業では満たされました。英単語も文法も根幹となるところを丁寧に解説してくださるグノーブルは非常に良かったです。

グノーブルの話題

岡本: 「グノーブルは自分に合っている塾だ」という話を家族とよくよくしていました。そのおかげか、弟もその影響を受けてグノーブルの英語を取ることになっています。

田邊: 私も「先生が一人ひとりをちゃんと見てくれる」とか「授業がすごく楽しかった」とか、友達とも母ともグノーブルの話をよくしていました。

佐藤: グノから帰宅した時、親

に「どうだったの?」と聞かれることはよくありました。「楽しかったよ」と答えていたが、それは本心でした(笑)。学校でも、数学の宿題の分からない問題を相談したり、「今日の英語はクラスの過半数が駒東生だったね」と話したりしました。

学校とグノーブルとの両立

佐藤: 僕は高2の部活引退後に入ったので部活との両立は分かりません。ただ、グノは宿題は多くなくて、その分授業で濃い内容を教えていただけて、復習で力をつける塾です。復習は自分のペースでやりやすいので、学校の授業との両立で苦労はしませんでした。学校の他のグノーブル生にも内職をしている人は僕の周りにはいませんでした。

田邊: どの科目も宿題がそんなにたくさんあるわけじゃなくて、普通にこなせる量だったので、両立に困ったことはありません。復習をしっかりやっていたら授業についていけるので、学校との両立は難しくありません。

岡本: 僕は高2の4月からだったので、最初のうちは部活もやりながら塾にも通っていましたが、その頃は1コマ2時間が週1で、部活が5時に終わったあとにグノの後コマを取っていました。グノの授業が部活を圧迫することはありませんでした。

高3のカリキュラムが始まって2コマ4時間の英語になってからは、そのタイミングで部活



岡本 陽資さん
(東京医科歯科大医・駒場東邦)

もなくなったので、授業に無理なく通っていました。宿題は最低限だし、復習も音読を中心にできたので、家に帰ってベッドでゴロゴロしながらでもやれました。僕はもともと英語が得意だったので、勉強で英語に時間を割かなかったのもあるけれど、最後まで全く問題なく両立できました。

グノーブルの英語

岡本：英語の力は伸びました。以前は英語が得意といっても、あくまでも学校の実力試験や模試で点数を取れていただけでした。

グノの高3のカリキュラムが始まってからは、「英語の文章をちゃんと読めていないんだ」と気づかされました。最初の頃はサミングアップ*¹でめっちゃくちゃ低い点数が続いてショックでした。

僕はもともと国語が苦手です。国語の文章が読めていない時と同じ感覚を英語の文章で感じたことはなかったのですが、英語の文章でも筆者の言いたいことを気にせず、ただ読み進めていただけだったとサミングアップで思い知らされました。文章の構成を意識して読むことが大事だと分かって、それが理解できただけで今までちょっと解くのに詰まっていた問題も簡単になると気づきました。

田邊：英語の力はグノで総合的に伸ばせたと思っています。も

ともと覚える勉強は得意だったので、高2までは文法問題で点が取れていました。でも、長い英文になると表面的にしか読めなくて、「これで大丈夫なのか？」という不安がありました。

しっかり鍛えられたのは高3のカリキュラムに入ってからです。筆者が言いたいことをつかんでいくという読解の授業の解説がすごく役立ちました。高3の夏には、「こういうことを言っているんだ」と分かるようになって、そこに面白さもあり、「成長した」と実感できました。

最も効果的だったのはやはりGSL*²を使った音読です。音読は毎日やっていました。授業で理解した点などを思い出しながら、自分が書いた文章みたいにスピーチしていく感覚で音読していくと、文章の内容が身につきます。

佐藤：僕は英語がずっと一番苦



田邊 志保さん
(理Ⅱ・浦和明の星女子)

手でした。暗記は得意なので、中学の頃は単語帳を使って単語だけを覚えていたけれど、全く英語力が身につけていませんでした。長文も読めなくて、英語は苦手なだけでなくすごく嫌いでした。

グノーブルに入って、英単語の捉え方も、英文の読み方も大きく変わりました。それまでは、英文を日本語に一生懸命置き換えていただけでしたが、英語のまま解釈していくやり方を教わって、復習の時には日本語を頭から追い出して、英語のまま誰かに伝えるつもりで音読を継続しました。すぐにある程度まで伸びたのを実感できました。グノの教材として用意される英文が面白かったりためになったりする内容だったので、音読にも楽しんで向かえました。「今日はこれをベッドで読もう」「これは昔読んだけれど、もう一度読みたいから読もう」と楽しめました。繰り返し読んでいると、以前は全く読めなかった難しい文章でも段々と明快なものに変わっていく感覚は面白かったです。

グノーブルの勉強法で良かった点

佐藤：とにかく夏休みや冬休みにそれまでの文章を全部2～3周読み直しました。移動中でもゴロゴロしながらでも寝る前でも読めるので、ためになりました。

田邊：1回理解して読めるよう

になって終わりでなく、理解した文章を何十回と音読し直しました。「ここはこういうことだったんだ」という新しい発見をしながら読むのが良かったです。黙読だとどうしても目が滑ってしまいますが、音読だとしっかり理解して読んでいくことになります。

岡本：高3の英語の授業は英作文と読解があって、それぞれの授業で先生からフィードバックをもらえるのが自信にもやる気にもつながりました。英作文を授業の最初に書いて、その日のうちに添削されたものを返してもらえます。宿題で書いてきた英作文も、次の週には返却されます。自分に足りない部分がリアルタイムで分かるのは助かりました。

読解でもサミングアップが毎回授業の最初にあって、その日のうちに返ってきます。点数を見て「一喜一憂するな」と言われても一喜一憂するし、それが授業に対するモチベーションになりました。

読解では長文が2～3個あって先生が丁寧に解説してくれます。そこに出てくる新単語などは、授業で解説される語源と一緒に、四隅の余白を埋め尽くす勢いでメモを取っていました。ふと「あの単語はどういう意味だったっけ？」となった時、そのプリントを探し出して、その単語が出てきたその文章も改めて読み返すようにしてしまし

た。そうすると単語の意味だけで終わらず、文章の内容や大事なところもまとめて復習できました。

田邊：演習と添削の間が空くと、「どういう感覚で解いていたのか？」を忘れてしまいます。グノーブルの授業内演習は、すぐに添削が返ってきて、「ここがダメだったんだ」と分かった状態で解説を聞けるのが良かったです。

佐藤：添削がないと、自分の書いた答案を見直す時、「大体できたからいいや」と適当になりがちですし、そもそもあまり見直しません。グノーブルの添削では、細かいところまで見ていただいたので本当にためになりました。

グノーブルの数学

佐藤：テーマごとに細かく考え方の筋道を教えていただけるのがグノーブルの特徴です。「まずはこの方針を検討しよう。その次は……」と優先順位やその理由も細かく話していただけるので、それらをきちんと理解した状態で使いこなせるように思考が整理されます。最終的には、新しい問題を見た時に「どういう方針を使うか？」が分かるくらいになりました。方針の理解を大切にしたい授業で、それが解説プリントにも細かく示されています。だから、「この問題ではこの方針を取るべき」という決定力が身につきました。



岡本 陽資さん
(東京医科歯科大学・駒場東邦)

偶然合っていた問題も「合っていた」というだけで喜んでそのままにしがちです。それをセルフチェックシート*でしっかりと確認して、その思考プロセスをまとめておくことで、次にもやっても確実にできる状態になります。間違った問題も、思考プロセスを書いて提出すると、先生がそれに対してすごく細かくコメントを書いてくださるので、やはり思考が整理されます。

田邊：もともと数学が苦手で、「数学は、問題を見てパッとひらめいて解ける、頭がいい人だけができる科目だ」という意識がありました。でも、グノの授業で解き方の一つひとつを教わり、「どの方法で解けるか？」を確認して、解いていくのにも手順があることを学べました。そこから数学の苦手意識が減っていきました。

高3の9月以降はテスト演習なので、セルフチェックシートがありました。今まで解いていたのと全然違う、型どおりでな

* 1 SUMMING-UP LABORATORY：高3の英語（読解）で毎回実施される英文の要約演習。一人ひとりの答案は担当講師が添削・採点して返却。音声教材も完備。知的にレベルの高い「読解力」の土台を築けるばかりではなく、「聴解力」「作文力」「話す力」や「プレゼン力」も鍛えるグノーブル独自の仕組みです。

* 2 Gnable Sound Laboratory：中1から高3までの6学年すべてに毎週用意されているオリジナル英語音声教材。合理的練習法（ワークアウト）も確立されており、英語が得意なグノーブル生の土台を築いています。

* セルフチェックシート：高2文系数学、高3数学で生徒自身が宿題終了後に記入するシート。解けた問題には「どう解いたか」、解けなかった問題には「何ができなかったか」などを記入。自分の傾向や理解度を分析して客観視し、次のステップへとつなげるグノーブル独自のツール。

い問題がたくさんあって、自分の積み上げてきたものをどうやって適用していけばいいのかを試していきます。セルフチェックシートのおかげで「自分がどう考えていたのか？」を客観的に見ることができて、「こういうところが良くなかったから、次の演習では改善していこう」という方針を的確に立てられました。できた問題も「どうしてできたんだろう？」という状態が段々と減っていききました。

グノーブルの国語

田邊：高2で古文と現代文、高3で東大国語を受講しました。私は昔から、国語が本当にダメダメで、全然できませんでした。高2で現代文を取った時、「国語では、聞かれていることにちゃんと答えるんだ」と実感して、そこから急に国語が得意になって、できるようになりました。国語ができなかった原因は、適当に解いていたからだったのだと思います。

以前は、記述問題の答案を書きながら「自分は何を書いているんだろう？」という曖昧さがあったけれど、しっかり添削してもらえて、「ここがダメだったんだ」という自分の弱点などが分かりました。東大の問題では、きちんと文章を読んで、聞かれていることをそのまま答えます。グノのおかげで国語に対する意識を固められました。

古文については、もともと危

機感を持っていて、高1の時に単語をひたすら覚えました。でも、単語を覚えただけでは読めませんでした。高2でグノの古文を取って、覚えている単語と併せてどんどん読めるようになっていきました。

グノーブルの物理

田邊：物理は高2の夏期からです。学校では物理の授業があまりなくて、ちょっと不安だったので取りました。グノの物理では、ただ暗記して公式を詰め込んで問題をどんどん解く感じではなく、公式にたどりつくまでの過程を一つひとつ追っていきます。先生が質問して、当てられた生徒がその場で考えてどんどん答えていく授業です。そのやりとりが記憶にとどまるから、難しい問題を解いた時に「やったことがあるな」と思い出せました。おかげで、物理はあまりガツガツやらなくてすみました。

グノーブルの化学

田邊：化学は高2の春期からです。化学は覚えることもたくさんあったけれど、覚えた知識をちゃんと自分の物にして応用できることが東大では大事です。先生が授業中に実験をして、「こういうことが起きていますか？」「どうしてこうなるんですか？」と質問して、生徒を当てていきます。覚えた基礎知識の確認をすると同時に、その場で考える力を養えました。

グノーブルの先生

岡本：僕が特に「すごい先生だ」と思ったのは二人です。一人目は高3の読解の先生です。初めて習ったのは高3の冬期の授業でしたが、最初から衝撃でした。先生は教室に入ってきた時、「ちょっと待って。言わないでね」とおっしゃって、急に生徒の名前を呼んでいきました。初回の授業から生徒の顔と名前が全員一致しているのを見て、僕は「うわあ、化け物だ！」と思いました。その他にも、長文の解説をしている時に言葉の端々から教養の深さがうかがえました。ひとつの文章から背景知識などを教えてくださるので、本当に楽しく授業を受けられました。単語の語源ももちろんですが、それ以外の知識も本当に豊富で、とても印象に残っています。

二人目は高3の作文・文法の先生です。すごくエネルギーが豊富な方ですが、一番すごかったのは、一人ひとりの生徒のこ



佐藤 大地さん
(理Ⅰ・駒場東邦)

とを細かいところまで本当にしっかり把握されていたことです。授業中のやりとりの中から、「この人はすごく生徒のことを見ているな」とびっくりしたことは何度もありました。

田邊：先生方は生徒一人ひとりの傾向などを分かっているらしいです。だから、先生からアドバイスをもらおうと、自分では気づかなかったことに「実はそうだったのかな」と気づいて驚くことが多かったです。先生方に対して「厳しい」と感じたことはなく、とにかく優しくかったです。

佐藤：先生方が初回授業で名前を覚えてくださるのは、うれしくもあり、ちょっと怖いのもありました(笑)。英語でも数学でも先生方の中で生徒の情報が共有されているようだし、生徒を覚えられないくらいの人数を入塾させていないのだと思います。

数学の先生は、僕がセルフチェックシートでたまに質問を書いて出したら、わざわざ速達で返信を送ってくださったこともありました。間違った問題のセルフチェックシートには、僕が半年前に間違った問題を書いてくださって、「この時にこう間違えていたのと同じ感じがしました」とコメントをくださいました。それが復習の種になって、少しずつ数学の力になりました。英語でもメールでの添削があって、先生方は全員、細かく丁寧にサポートしてください



田邊 志保さん
(理Ⅱ・浦和明の星女子)

ます。

後輩へのアドバイス

岡本：小手先の知識やテクニックよりも、素直に頭が良くなれば受験は受かります。その場しのぎでやろうとするのではなく、確固とした理解を積み重ねることが、受験を成功させるための一番大事なことだと思います。賢くなってください。

僕も受験が始まった時は何も分からないので、「どうやって勉強したらいいのか？」をインターネットで探しました。でも、結局、自分に向いている勉強法は自分にしか見つけられません。だから、いろんなことを試しながら、自分を信じて進むことが大切です。

もし間違っていて自分では分からないので、適宜友達や先生に相談すれば、自ずと賢くなっていきます。僕もグノの先生に質問して「ああ、なるほど」となることが何回もありました。困ったらグノの先生に質問してください。

田邊：受験で一番大事なのは、「自分の課題が何で、どうしたらいいのか？」を把握することです。勉強の計画を無理に立てるのではなく、「これぐらいの量ならこなせる」と自分のことを知っていくことです。詰まったら、グノの授業を思い出したり先生に質問したりして、軌道修正してもらうのが大事です。

佐藤：グノは宿題が多くありませんが、授業を大切に、復習をしっかりやっていくことが大事です。グノをしっかり利用していくといいでしょう。グノを活用して、核心への理解を、焦らずにきちんと固めていくといいと思います。

東京大学 理系 Part3

おばな はる き
小花 栄貴さん (理 I・開成)

みず の りょうすけ
水野 僚介さん (理 I・麻布)

グノーブル入塾のきっかけ

小花: 中3の時に入塾しました。それまではずっと学校だけで英語をやっていたけれど、なかなか伸びなかったの、「英語力を身につけたいな」と思って塾を探していました。僕の場合、兄がグノーブルに通っていて、親からの勧めもありました。

僕自身は、塾に対して「しっかり英語を学びに行く」という意識が強くありました。ですか



小花 栄貴さん
(理 I・開成)

ら、授業に集中できる環境であることと、受験に特化した英語ではなくて英語に対して真剣に向き合えることを考えてグノーブルにしました。

水野: 僕は高2の9月に「塾に入ろう」と思いました。中学受験が終わって5年近くこの塾にも行っていないくて、何もしていませんでした。さすがに独学ではきつくなり始めて、英語と数学で入るつもりでした。映像授業の塾を除外して、友達が多く行っている塾の中で検討しました。もうひとつの塾と「どちらにしようかな?」と迷いましたが、友達から塾の内容や評判を聞いていて、グノーブルには悪くない印象がありました。

グノーブルの話

水野: 学校で、先輩や後輩との日常的な会話で「今どこの塾に行っているの?」という質問をよくしていました。同じ塾に行っている人たちは同じよう行動して生活しています。僕が仲の良いグループがグノーブル

に行っているグループと重なっていて、僕は高1くらいから「グノーブルが良さそうだな」と思っていました。

小花: 同じ部活の子二人が僕と同じタイミングで入塾しました。その二人とはそれまではあまり仲良くありませんでしたが、入塾を機に一気に仲良くなりました。水野君が言っていたように、部活以外の曜日で塾に行く曜日を決めると、必然的に学校の放課後に集まって一緒に行くようになります。宿題も分からないところがあったら、相談しながら「こうなんじゃない?」「いや、こうなんじゃない?」とお互いに教えたり教わったりしていました。

グノーブルの良いところ

小花: 僕が一番助かったのは、自分が申請している曜日でなくても、空いていたら自由に振替できるところでした。僕は部活と学校行事に力を入れていたので、どうしても自分がもともと入っていた曜日では行けない時

は他の曜日に振り替えました。

映像授業だと、理解はできないわけではないけれど、やはり学びづらいです。だから、映像ではなく対面で振替できるのがありがたかったです。映像だとスクリーンと自分の部屋なので、どうしても隔離されてしまっている印象があります。先生が生で目の前で喋っているのと、映像で語りかけてくるのとでは、やはり場の雰囲気も全然違うし、先生たちの熱意も映像の中だと感じられない部分があります。学校行事で忙しかった時期は映像を活用したこともあるけれど、やはり対面で受けたほうが効果は上がりました。先生が訴えかけてくれるのを生で聞くと、僕たちも受け取りやすくなります。

学校などでは英語の勉強で単語帳を開いている人が多いです。僕も中3でグノーブルに入る時、「あったほうがいいな」と思って単語帳を買いました。でも、グノーブルでは単語帳がなくても覚えやすい授業をしてくださるので、僕は最後まで単語帳をほとんど使わずにすみしました。これがグノーブルと学校や他塾と大きく絶対的に違うところです。

単語帳の暗記は、英単語を日本語に対応させて覚えることです。でも、グノーブルでは、文脈と語源から英単語のイメージそのものを捉えていけます。英単語に圧倒的に深くなじめます。**水野:** 僕も学校行事に力を入れていたので、振替が利くの



水野 僚介さん
(理 I・麻布)

けられました。

対面授業については僕も小花君に完全同意です。映像と違って、対面だと先生が存在があるからこその緊張感があります。僕は授業で前のほうの席に座って、先生との距離を近くしていました。自分から作り出す集中力と場が作り出す集中力があって、映像授業だと「自分で集中しよう」と思ってもどうしても阻害されます。そういう面で、場が作り出す集中力が生じる対面のほうがいいと思いました。

「宿題の量がとてつもなく多い」と評判の塾があります。それをやっていたら伸びるのかもしれないけれど、僕は受験勉強を始めた時期が遅かったので、効率を上げないと間に合いませんでした。グノの宿題は多くありません。授業に集中して理解したことを復習で自分のものにしていくのがグノの授業ですから、自分のペースで要領良く

やっていました。宿題で自分の予定を潰されないようにうまく勉強できたのが大きかったです。

学校とグノーブルとの両立

水野: もちろん僕はできるとしています。授業を真面目に受けていれば大丈夫です。振替できますし、宿題の量も多いわけではありません。最終手段として映像授業があったので、学校優先でも悩むことはありませんでした。僕の友達がグノーブルに通っていたのも大きかったです。がうまく友好関係が作れて両立もうまくいきました。

小花: 僕の場合、特に高3の3月から5月にかけて運動会の行事が忙しくて、その期間は学校行事の自分の役割をこなしつつ、どうしてもグノーブルに行けない時は映像授業を利用していました。映像授業はひとつの授業が何個かに分かれていて、ひとつ30分くらいです。だから、問題を解いた上で映像授業を電車の中で聞くこともできました。

グノーブルの英語

小花: 英語はそんなに得意なほうではありませんでした。でも、不得意なわけでもなくて、テストで点数は出ていました。

グノーブルでは本当の意味で英語の実力が上がりました。グノーブルの英語を実際に受けて、「受験特化の英語ではない」と感じていました。言語としての英語をそのまま学ぶのを教えて



小花 栄貴さん
(理I・開成)

もらいました。英語を日本語に直すのではなく、英語を英語でそのまま楽しめるようになりました。

水野：僕も英語は得意でも苦手でもありませんでした。英語に対して特に何も思っていなくて、嫌いでも好きでもありませんでした。

グノーブルに入ってからすぐに成績が上がったわけではありませんが、徐々に、でも、確実に上がりました。まず、グノーブルに入ってから、英語を読む機会も量も確実に増えました。それによって意識が英語に向かうようになったので、たとえば、普段の生活でも英語に自然に目が行き、その意味が段々分かるようになって英語に対する意識も少しずつプラスのほうに変化していきました。

東大を目指したければ「東大の過去問をやってほしい」となりがちです。でも、グノーブルの英語は受験特化塾ではないから、受験英語の点数という点では遠回りだという印象があ

るかもしれません。でも、本物の英語力がついているからこそ受験英語にもむしろ近道です。僕の場合、本物の英語力が高められたからこそ、併願は受験対策をほとんどせずに合格できました。何よりも教材が興味の湧く内容で面白かったのも、そういう英語に触れたのが良かったのです。

小花：グノーブルの英語は時事ネタもたくさん扱ってくださいますし、幅広い題材が教材になります。僕が一番印象に残っているのは『星の王子さま』の献辞部分でした。文構造や単語レベルはそんなに難しいものでないのに、そこにはいろいろな思いが込められていることを実感させられる文章でした。授業で扱われて、先生の解説を受けた時に「言語って面白い！」と少し感動しました。英語を翻訳機にかけて日本語にただけでは読み取れないものがあって、それを先生が教えてくださるのはとてもありがたかったです。それが知的な英語で、英語を英語のまま読まないで得られない感動でした。

水野君が言うように、グノーブルは英語力を底上げしてくれる塾です。グノーブルは、大学受験をゴールとした英語ではなく、英語力をボトムアップすることによっていろいろな英語に対応できるようにしてくれます。英語そのものを理解していれば東大の英語でも困りません。僕は英語の過去問演習をやらずに

合格できました。グノーブルは本当の英語力を底上げしてくれることで、受験英語の得点力もついたのでと思います。

水野：グノーブルは教材で大学受験の過去問ばかりをやる塾ではありません。でも、いつどのように過去問に取り組めばいいかはプリントでははっきりと提示していただけましたし、記述問題はどれだけ提出しても先生がすぐに添削を返してくださるなどサポートも手厚かったのが安心して受験に向かえました。受験塾としても素晴らしいと思います。

授業内演習と添削

水野：授業内演習にはメリットがありました。その場で真剣に問題を解いて、それをその場で添削していただけるのはすごく役立ちました。その添削を踏まえた上で解説を聞いて、書き直したのもお願いすればまた添削していただきました。学校などと習熟度が全然違いました。受け身で解説を受けるだけでは得られないものがあります。

小花：僕は演習時間内に終わらないことが結構ありました。でも、これが自分の中でペースアップにつながりました。本番のテストと同じでみんなが集中している雰囲気の中、限られた時間で自分なりの早いペースで解かないと終わらない量だったので、速く解く練習になりました。段々と「時間内でどこまで終わるのか？」も分かってきて、

目に見えて自分の習熟度が上がっていくのが実感できました。受験は時間との戦いなので良い経験になりました。

添削では、先生が指摘してくださった間違いを「何が違うんだろう？」と自分なりに考えて、その上で授業を聞きました。自分が「ここが間違っていたんだな」と思うところを先生は別の直し方をされていて、「そういう直し方もあるけれど、こういう直し方はどうですか？」と先生に質問していました。添削に対してまずは自分で答えを作ってみて、先生の授業を聞いて、合っていたらそれでいいし、違っていたら「自分の正した答えはどうなんだろう？」と先生に聞いてみます。この質問で間違いが分かったら、それに対する訂正も加えていきました。先生が添削をしてくださることによって、僕たちの習熟度はどんどん上がっていったと思います。

東大の過去問を数年分試してみた時も時間内に解き終わりました。グノーブルの授業内演習のほうが東大よりも量が多いし、時間的にもきついです。このきつさを経験しておく、それ以外のテストであまりビビらなくなります。本番が終わったあと、英語は手応えがありました。

グノーブルの数学

水野：グノーブルの数学にはセルフチェックシート*がありました。自分が解いている時の頭の働きを自分で解析して、「ど

うしてこれが違ったんだろう？」と見返すのに役立ちました。解答を見た時「どうしてこれはこうなっているんだろう？」と考える上でも、自分の考え方と先生が教えてくださった解き方の違いを見つけて、そこをその都度直していくのがすごく良かったです。セルフチェックシートでは、解答と照らし合わせて「どういうふうに修正していくか？」を意識できるので、数学を解く上でのロジックというか論理の組み立て方を考えられます。

東大の数学はセンスとロジックが半分半分だと思います。グノーブルの数学では頭の中にある数学の引き出し、問題に対する引き出しを増やしていきます。その取り出し方も教えてもらえるし、「どうやって答えに近道で行けるか？」も鍛えられます。東大の数学は、ひとひねりしなければならぬ問題ばかりです。そういう点でセンスが必要だと思います。ただ、そこを体系化するやり方を教えていただいたお



水野 僚介さん
(理I・麻布)

かげで、基本問題は絶対に落とさなくなりました。他の人が解ける問題は絶対に解けるようになって、そこでディスアドバンテージを食らうことはありませんでした。

グノーブルの先生

小花：高3で初めて読解の先生に教わった時、「これは違う」と思いました。学校などでは「英文の主語がどれで、述語がどれで」と探し、主節と副詞節を逆にして和訳します。先生の授業では英語の語順のまま解釈していくやり方を学び、そういう読み方をしてこなかった僕にとって斬新でした。

「英語の筆者は前から書いて、ネイティブも前から読んでいく」と先生がおっしゃっていたのも印象的でした。ネイティブの読み方を学ぶのは、英語を英語で楽しむ一番の近道です。返り読みは、1回読んだのにもう1回そこに戻って読む作業で、時間の無駄になります。グノーブルで学んだ読み方にしてからは、格段に読むスピードが速くなりました。

水野：シンプルにグノーブルの先生たちの解説が面白かったです。それが前提としてあって、プラスαでいろいろサポートしていただいたので感謝しています。面白さといっても、バラエティ的な面白さではなく、知的好奇心を刺激してくれる面白さです。自分の頭に今までなかったことを教えていただけて、

*セルフチェックシート：高2文系数学、高3数学で生徒自身が宿題終了後に記入するシート。解けた問題には「どう解いたか」、解けなかった問題には「何ができなかったか」などを記入。自分の傾向や理解度を分析して客観視し、次のステップへとつなげるグノーブル独自のツール。

「こういう解き方がある」「こういう考え方がある」というのを学べました。しかも、分かりやすかったです。

僕は人とのつながりが好きなので、生徒一人ひとりにしっかり目を向けていただけるという面ですごく楽しく受験勉強できました。

小花: 高2の時の先生からは、英単語の成り立ちをしっかり習いました。接頭辞や接尾辞や語幹から、木みたいにならされました。そのおかげで、英語の文章で知らない単語に出会っても自分で推測できるようになりました。推測する面白さも教えていただきました。知的好奇心を引き出してくれる授業でした。

後輩へのアドバイス

小花: 私たちが目指しているのはもちろん志望校合格ですが、できるだけそこを目標にしてほしくありません。学習は学ぶのがメインで、合格するのはその結果だと思います。英語、さらには数学や国語や理科も楽しんで好きになるように心がけてください。好きになれば絶対に結果がついてくるので、そこを一番に大切にしてください。これが、僕がグノーブルで教わったことです。

水野: 僕が受験で成功できた要因は、受験に対して主体的に動いていたからだと思っています。グノーブルに入ったのも、親に入れられたわけではなく、「自

分にはこの塾が必要だな」と思ったからです。グノーブルで勉強している後輩には、「どうして自分がグノーブルにいて、どうしてこの勉強をやっている、どうしてこれをやらなければいけないのか？」を考えながら勉強に取り組んでもらいたいです。そうすれば勉強に取り組む上での楽しさも変わってくるはずで、主体的になることで、自分から先生に聞きに行くこともできるし、自分が真剣にやればやるほど先生もそれに応えてくださいます。受験に対して自ら動いて積極的になることが重要です。

17期生 合格者インタビュー

国・私立大学

医学部

座談会出席者 (五十音順、本文中敬称略)

Part 1



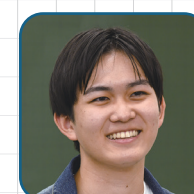
いとう ゆめかさん
(大阪大・豊島岡女子学園)



おかの けんじ
岡野 健人さん
(千葉大・駒場東邦)



たかせ あゆかさん
高瀬 あゆかさん
(慶應義塾大・桜蔭)

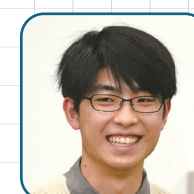


たけうち ひなた
竹内 陽さん
(千葉大・芝)

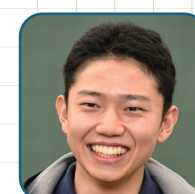


わたなべ ゆういちろう
渡辺 祐一郎さん
(千葉大・巣鴨)

Part 2



おくの としか
奥野 利亮さん
(東京医科歯科大・渋谷教育学園渋谷)



なかやま わたる
中山 渡さん
(筑波大・麻布)

国・私立大学 医学部 Part1

いとう ゆめかさん (大阪大・豊島岡女子学園)

おか の けん と
岡野 健人さん (千葉大・駒場東邦)

たか せ
高瀬 あゆかさん (慶應義塾大・桜蔭)

たけうち ひなた
竹内 陽さん (千葉大・芝)

わたなべ ゆういちろう
渡辺 祐一郎さん (千葉大・巣鴨)

医学部受験のきっかけ

伊藤：私は医学部受験を決めたのが遅くて高3の夏です。それまでは理工学部に行こうとしていましたが、改めて考え直した時「理工系に行って何をしたいのか？」が分からなくなりました。小さい頃、私はとても病弱で、その時にお世話になったかかりつけ医の先生のことはずっと忘れられませんでした。このこともあって、理工系はやめて医学部へ行くことにしました。臨床も研究もど

ちらも選択肢として考えています。**岡野**：僕は3歳の頃に脱臼してすぐ直してもらえた時の記憶が強く残っていて、小学校の頃から夢を書く場面ではいつも「医者」と書いていたほどです。高校で進路を考えた時、医師以外の職業も考えましたが、「やはり医者は魅力的だ」と考えて医学部を志望しました。

竹内：僕が医学部進学すると決めたのは高1の夏です。小学生の頃から通院していて、その時に会った子どもたちの中に、外に出たことがない子もいました。そういう子たちを救いたくて、小学時代から医者になることを視野に入れていました。高校に上がるタイミングで進路選択をしっかりと考えた時、「医者になりたい」と強く思いました。

渡辺：僕も岡野君と同じで小さい頃から医学部志望でした。僕が喘息で苦しんでいた時、小児科の先生に助けってもらったので、「先生みたいな小児科医になりたい」と思っていました。将来の進路について考え始めた時、その先生のことの思い浮き、憧れが強まったので、医学部に決めました。

高瀬：医学部を目指したのは物心がついた時からです。両親や祖父が全員医師だったので、小さい頃から

ずっと他の職業を考えたことがありませんでした。両親からは「医学部に行きなさい」と言われていたわけではなく、むしろ「他の学部も考えたら？」と言われていた中、高校生になって「大学の学部をどうしようかな？」と改めて考えてみました。

私も小さい頃ずっとアレルギーで病院に通っていました。その時の先生が、子どもだからといって私を甘く見ることなく、分からないことははっきり説明してくれました。この経験から「患者さんと気軽に接する医師になりたい」と思って医学部を志望しました。今は漠然と小児科や子どもの精神発達について興味があって、まず臨床を経験し何か具体的なテーマが見つかったら研究の道へ進みたいと思っています。

中学受験グノーブルについて

高瀬：中学受験グノーブルには5年生から入りました。母の友人のお子さんが中学受験グノーブルに通っていて、「すごくいいよ」という話を聞いていました。説明会に行った母の「楽しそうだよ」という話もあって、まずは体験授業に行ってみました。そうしたら授業がすごく面白くて入塾を決めました。先生は皆さんキャラが濃くて、それがモチベーション



岡野 健人さん
(千葉大・駒場東邦)

になりました。勉強が楽しいだけでなく、「先生に会いに行きたい」という気持ちもあって通いました。

「他塾に通ってみよう」と思ったこともあったけれど、その塾は堅苦しい雰囲気というか、みんなとにかく「受験まっしぐら」という感じで、厳しい雰囲気がすごく苦手だった私はやめました。

中学受験グノーブルで印象に残っている先生は算数の盛田先生です。たとえば毎回面白く、解説もとても細かくて、すごく分かりやすかったです。先生の性格と授業は、今まで受けてきた算数や数学の授業の中で一番楽しかったです。

グノーブル入塾のきっかけ

高瀬：大学受験グノーブルに入ったのは、高2の1月くらいで冬期講習のあとでした。中1から高2まで通っていた英語の塾は、日本の大学受験ではなく海外の大学受験を意識した塾でした。そういう進路も考えていたけれど、高3になっていろいろ考えて、「やはり国内の大学に行こう」と決めました。それまで大学

受験に向けた英語の勉強を全くしたことがなかったので「塾に通おう」と思いました。

学校では他塾に通っている人が多くて、テキストを見せてもらいました。そのテキストは、私が苦手な、知識を詰め込むタイプでした。一方、「グノの英語がいいよ」という評判も周りの友達からは聞いていました。中学受験で通っていたのでグノに信頼感というか親しみがあって、「きっと楽しいだろうな」と思って行ってみたらやはりすごく良かったので、そのまま入りました。

渡辺：僕は親の勧めで中1のスタートダッシュ講座*1からです。グノは「英語がいい」と聞いていましたし、グノのHPのGnoTube*2で合格体験のビデオを観た時「楽しそうだ」と思いました。他塾の英語も検討しましたが、そちらは詰め込み型で、宿題は多いし、テキストも分厚いものでした。それに比べて、グノは教材の内容が濃く、授業も楽しいと感じました。

竹内：僕は中2の4月からグノに入りました。中1の頃、学校の英語についていけなくなって、英語が正直大嫌いで「どうにかして好きになりたい」と思っていました。この時、親の勧めでグノのことを知って、実際に通っている友達から「楽しい」という話を聞き、グノへの入塾を決めました。他塾の人たちが「つらい」と愚痴をこぼしていたところは避けました。

岡野：僕は新高1の春期講習から入塾しました。友達が入っていて、「グノの英語がいいよ」と聞いていたのがきっかけです。検討していた他塾は受験に特化した詰め込み型で、授業も1回だけ受けたら全然面白くありませんでした。一方、グノーブルで初めて教わった時、単語の語源が

らの説明に感動して、入塾することにしました。

伊藤：私は中3の春に入りました。先輩がグノーブルに通っていて、「すごくいい」という情報を聞いていました。とても仲のいい友達もグノーブルに通っていて、その友達からの評判もありました。当時の私は「学校の英語だけでいいのか？」と悩んでいて、グノの評判を先輩や友達から聞いたので「とりあえず入ってみよう」と思いました。グノで最初に出席した授業からめっちゃくちゃ面白くて、「このまま続けよう」と決めました。

私はもともと言語学習的なものが好きで、英語も好きでした。「中高で1回は留学したい」と思っていて、中3の時に短期研修にも行きました。受験を意識していたのは大きいですが、グノに入塾したのはやはり英語をもっと好きになれると思ったからです。

グノーブルの印象

伊藤：私の学校は、英語で他塾に通う子たちが多数派で、グノは少数派



伊藤 ゆめかさん
(大阪大・豊島岡女子学園)



高瀬 あゆかさん
(慶應義塾大・桜蔭)

*1 スタートダッシュ講座：新中1対象の講座（2～3月に開講）。

*2 GnoTube：SUMMING-UPの英文（年間45本）を音声と流れるようなスクリーン画像をセットにしてYouTubeで配信しています。（サミングアップは塾生限定公開）

です。その他塾は宿題が多いので、中学の頃から授業中に内職していたり、定期テストを捨てていたりした子もいます。一方、グノは宿題がそんなに多くないので、部活や学校との両立ができました。

私は高1から数学でもグノに通いました。以前は他塾に通っていましたが、そこは本当に合わなくて、英語で通っていたグノへの転塾を考えました。友達からも「グノは数学もいいよ」と評判を聞いていました。グノの数学は本当に分かりやすいし、先生と生徒の距離が近くて、他塾にない面倒見の良さでした。

岡野：グノは授業中寝させてくれませんか（笑）。当てられて答えるので、寝ている暇はありませんでした。他塾では寝てしまったこともあるけれど、グノは寝ていたらもったいないです。楽しかったし、授業に参加している実感があったから、1回1回の授業が身になっていました。そこが他塾との大きな違いです。

竹内：数学だけ他塾に通っていましたが、そこでは先生が僕の名前を全

然覚えてくれませんでした。50人クラスで、先生が覚えているのは15人くらいしかいなかったと思います。一方、グノの先生は1回目の授業から生徒の顔と名前が一致していました。初めて会った人に自分の名前を覚えてもらえるのが本当にうれしくて、家族のような心地良さがありました。

伊藤さんも言っていたように、他塾に通う人は内職ばかりで、学校のテストを捨てているようでした。僕は「学校のこともできないと意味がない」と思っていたので、そういう意味でもグノは良かったです。

渡辺：僕の学校はそもそも塾に通っている人があまりいなくて、他塾が数人いて、グノは僕一人でした。その後、僕が「グノはいいよ」と誘って何人か入ってくれました。

グノは宿題の量が多くありません。授業中も当てられるから、積極的に授業に参加できます。ただ、当てられた時はドキドキします。高3になって最初の頃は後ろのほうに座っていました。とてもエネルギーな先生の、見たことないほどの熱意に圧倒されたからです。でも、先生から「失敗することは成長につながる」と言われて、「前の席に座ったほうが積極的に授業を受けられる」と思い、次第に前に座るようになりました。それでもずっと緊張していたけれど、最終的に積極的に発言できるようになりました。その先生からは、うまくいかなくても「粘り強いこう」といつも言ってもらっていました。

高瀬：グノの授業は置いていかれることが絶対にありません。先生たちは逐一「ここまで大丈夫ですか？」と聞いてくださいます。それが形式的でなくて、本当に分からなかったら手を挙げて聞ける雰囲気がありま



渡辺 祐一郎さん
(千葉大・巣鴨)

した。

先ほど「名前を覚えてくれる」という話が出ましたが、確かにそのとおりです。授業中に先生が満遍なく、当ててくれます。たとえ、自分が後ろに座っていたとしても、「前の人ばかり当てられるから別にいいや」とはならず、いつでも緊張感がありました。同時に置いていかれない安心感もあって、「頑張ろう」と思えるモチベーションになりました。

グノの英語は教材の質が本当に良かったです。読解では過去問もあったけれど、ニュース記事や、人生のためになる話も教材になっていました。読むだけで面白くて、英語を学べるだけでなく、教養も身につきました。受験だけでなく、ずっと役立つことを学べるのがグノの良いところです。

グノーブルの英語

高瀬：和訳と英訳がめちゃくちゃ苦手でした。ずっと「自然な日本語、自然な英語に訳せるようになりたい」と思っていました。でも、グノでは、文法的な解説だけではなく、

それぞれの言語の特徴も話してもらえたので、興味深く授業を受けて復習しているうちに、いつの間にか力がついてきて、和訳も英訳もどんどん得意になりました。

渡辺：中学受験が終わってすぐに英語は始めましたが、スタートダッシュ講座に通ったので、順調にスタートが切れたと思いますが、その後は、特に得意でも不得意でもない感じでした。

特に伸びたのは、音読をした高3の時です。先生からは「短時間でも毎日音読を」とずっと言われていて、それで「やろう」と思ってやり始めました。筆者が言いたいことや筆者の感情に自分の気持ちを合わせて声に出すことで内容の理解が深まります。GSL*があるので、暗記するまで短文を読みました。黙読だと途中で飽きたり、つまらなくなったりするので、声に出したほうが良いと思います。黙読は眠くなって、気づいたら寝ていることもありました。

竹内：中1の頃は英語が苦手で、中2中3ではそこまで伸びませんでした。単純に真面目にやっていたからです。逆に、一番伸びたのは高2からです。高2でめちゃくちゃ成績が下がって嫌になったけれど、



伊藤 ゆめかさん
(大阪大・豊島岡女子学園)

その時の先生が粘り強く指導してくださって、「自分もやろう」と思って音読をし始めました。そこから一気に伸びて、3~4か月後には模試の成績も上がるし、読む速さもだいぶ上がったのを実感しました。

岡野：中3で入った時はどちらかというと苦手で、全くできないほうではないけれど得意でもありませんでした。クラスも最初は中間ぐらいでした。でもグノの授業で英単語の覚え方が変わりました。それまではひたすら単語帳を見て一対一で覚えていました。でも、語源から分解して教えていただいたので、単語に取り組む姿勢が変わって、そこから英語ができるようになりました。

僕は受験直前までグノーブルの英文を読んでいた。先生が選んでくれた英文は、理由は分からないけれど、2回読んだ時と3回読んだ時の読後感が違って、毎回新しいことが分かります。選び抜かれた英文なので、入試本番の英語の試験が始まる前の休憩時間でも読んでいました。今でも好きで読んでいます。

先生の解説を受けた文章なので、ある程度前提知識が備わった状態でもう1回読むと、1回目に読んだ時は気づかなかったところに目が行きます。それを繰り返すと、どんどん細部に目が届くようになっていきます。他の英文を読んでもそこまで感じないので、やはり選び抜かれた英文の効果だと思います。

伊藤：私は英語が得意でしたが、高2からすごく伸びたと思います。長文を読んでいた、日本語を介さずに意味を取れるようになりました。英語を英語のまま読めることで、英文和訳は別として時間短縮につながるし、ネイティブに近い発想になれたと思います。

私は毎日音読していました。先生



岡野 健人さん
(千葉大・駒場東邦)

が「人に聞かせる気持ちで」とよくおっしゃっていたので、私はベッドに置いてあるぬいぐるみに向かって読んでいました。ぬいぐるみでも、棒読みにはならず、聴衆に向かってプレゼンしているような気持ちになれました。

グノーブルの英語の有効性

伊藤：グノの英語は受験だけを意識していません。受験を超えて大学でも使える英語です。私は大学以降も夏休みを使って短期留学に行きたいので、グノで身につけた英語の力を使いたいと思います。音読していたから英語を口に出すことに抵抗がなくなりました。音読は自分で考えて喋っているわけではないけれど、スピーキングにも生きてくるはずです。

岡野：英会話という点ではまた別のトレーニングが必要だと思いますが、海外の大学生が読むテキストも教材として用意してくださったので、高度な英文を読む力がつきました。グノでの勉強は大学への橋渡し、さらにその先につながるものになっていると思います。

竹内：グノの授業を復習までしっかりやれば4技能すべて網羅できます。音読はスピーキングになるので、実践英語への土台はだいぶ上がった

* Gnoble Sound Laboratory：中1から高3までの6学年すべてに毎週用意されているオリジナル英語音声教材。合理的練習法（ワークアウト）も確立されており、英語が得意なグノーブル生の土台を築いています。

という感覚があります。医学部では論文を読んだり書いたりします。グノでライティングもしっかりやってきて、長い文章を書くことに抵抗を覚えなくなったので、今後の土台はしっかりできました。

渡辺: 僕も土台はできたと思います。特にリーディングでは、音読のおかげで速読力がつきました。学校で周りの人から「読むのが速すぎる」と言われたくらいです。読むスピードがついたので、今後大学で読む英文も速く読めるでしょうし、その先にも活かせると思います。ライティングの授業で英文を書いてきたので、それも将来につなげていけると思います。

高瀬: 高3の秋に、「志望校の過去問を始めたほうが良いでしょうか」と先生に相談したことがありました。先生からは「グノの教材を復習していればどんなタイプの英文や出題でも対応できるようになります」とおっしゃっていただきましたが、それは本当にそのとおりでした。いろいろ併願したら、英語の問題はそれぞれタイプが違っていましたが、「こういう問題しかやっていないからできない」とはなりません。グノの英文をやっていたら、大学受

験の英文だけでなく小説や哲学にも触れられるので、どういう文章でも抵抗なく読めるようになります。大学に入ってから医学系の文章を読む時もグノでの経験が役立つと思います。受験が終わったので洋書を読んでいます。グノでいろんな文章を読んだおかげでスラッと読めます。

グノーブルの英語の特徴

高瀬: 高3で英語に時間を取られなくなかったので、宿題が多くなくて助かりました。数学などの他の教科が苦手な私は、英語に時間を割いていると、他の教科をやる時間がなくなって不安になります。グノは授業で完璧に理解して、家に帰る途中で復習すれば十分です。プリントなのでいつでもどこでもササッと復習できます。いろいろ書き込んであるから、それを見ただけで授業の雰囲気や教わったことが蘇ってきます。先生が「昔、通っていた生徒さんが受験期はソファに寝転がってプリントを音読しているだけだったそうです」とおっしゃっていて、本当にそういう感じで私も英語を復習しました。受験直前期は、他の勉強で疲れた時にグノの英文を読むと、息抜きにもなるし、さらに理解が深まったり、忘れていた単語や語法などを思い出せたりできて、すごく良かったです。

渡辺: 僕は音読と単語の説明がグノの特徴だと思います。高3の時は単語帳を全然やりませんでしたし、そもそもやる必要もありませんでした。先生は単語の説明をする時、僕たちにイメージをつかませるためにいろいろ実演してくださいます。たとえば、動作を表す動詞でも、副詞や前置詞でも、先生が実演して下さると強烈に残ります。同じ単語がまた



竹内 陽さん
(千葉大・芝)

出てきた時、先生は何回も実演して下さるから、そういう単語を僕は自然に覚えられました。だから、単語帳を見る必要はありませんでした。

竹内: 僕は音読に加えて、先生のエネルギーが授業が好きでした。後々授業の振り返りをする時、授業の情景が全部思い浮かびます。「先生はこの時こんな感じで言っていたな」と印象に残り、さらに「ここが自分の分からなくなったところだ」と思い出しやすくなります。そういうところの周りを重点的に読み直すと、2回目がとても分かりやすくて、それを繰り返したら文章全体がつかめるようになりました。

岡野: グノーブルは教材がすごいです。何回読んでも新しいことを吸収できるととても良質な英文で、他の英文とは一線を画しています。選び抜かれた英文だからこそ、サイクルがより生きてくると思います。

伊藤: 単語の説明がすべて印象に残る授業でした。授業を受けてから1週間で何度も復習するけれど、その後の夏休みにもう1周復習していました。夏休みの間でも授業が鮮明に記憶に残っていて、「先生が何々をやった」とか「私はここで当てられて間違えた」とか、そういうのも覚

えています。だからこそ、英文の内容もすぐに頭に入ってきたし、英語の構造も取れるようになりました。先生が全力でやってくださった授業が良かったです。

授業内演習と添削

伊藤: 授業内で演習すると、時間の制限があります。家で宿題だと、どうしても制限時間が何分と書かれていても延ばしてしまうのが現実です。授業内演習では時間になると、解説が始まってしまうのでできません。本当に英文を速く読まなければならないし、みんながいるという緊張感もある中で解くため、家で解くよりも入試本番に近い環境を体験できました。しかも、分からなかったところが記憶にある状態ですぐに解説を聞けます。

岡野: 高3の最初は添削が毎回0~1点ですごく悔しかったのですが、先生はいつも「粘り強く」と書いてくださいました。先生からコメントをいただけたので、自分の成長を見もっている実感が持てて頑張れました。伊藤さんが言うように、演習後すぐに解説があるので、自分が分からないことをそのまま教えてもらえて定着しやすかったです。理想的な添削の方法だと思います。

竹内: 授業内で演習すると、周りの人のペンの音が聞こえて、だいぶ緊張感を持って取り組みました。時間制限もあるので、入試本番を意識して臨めます。宿題で解いた問題の解説だと、分からなかったところを忘れてしまいます。解いてすぐの解説だと、記憶が新しい状態で先生の話聞いて、より理解しやすかったです。

渡辺: 僕も前の3人とほぼ同じで、添削はとても大事だと思っています。

授業中に解いて、その場で添削してもらうことで、自分が理解していないところがすぐに分かります。僕もほぼ毎回「粘り強く」と書かれていました(笑)。先生が元気でエネルギーだから頭に入りやすいし、それを復習することでさらに理解が深まるのが良かったです。

高瀬: サミングアップ*1もすぐに直接添削してもらえるので、自分で解いて答え合わせをするよりも全力で取り組みます。たとえば、宿題を自分で解いてきて授業で答え合わせする場合、自分しか答案を見ないので、80%の力で解いてしまいます。しかも、間違ってもササッと丸つけするだけで終わります。一方、グノでは毎回添削してもらえて、先生に実力が把握されているのが分かっていたから、「頑張って良い点を取りたい」というモチベーションになりました。

すぐ解説してもらえると、「こういう考えのプロセスで間違った」というのがよく分かるから、「次回はこうしたら間違えないな」と考えたり、新しい知識をそこで得られたりして、学んだことが定着しやすかったです。

グノーブルの数学

伊藤: 高校1年の夏まで数学は他塾に通っていたけれど、そこは生徒と先生の距離が遠くて、私には合いませんでした。グノの英語は少人数な上、生徒と先生の距離が近いので、無意識のうちに比較して差を感じていたのかもしれません。他塾をやめたあと、グノに数学でもお世話になることにしました。

グノの先生は本当に分かりやすいし、授業は数学愛にあふれていて、すごく良かったです。私はもともと



渡辺 祐一郎さん
(千葉大・巣鴨)

数学がとても嫌いでしたが、先生のおかげで好きになりました。手書きの解説プリントも分かりやすくて熱が伝わってくるので、受験直前期も毎日見ていました。成績もめちゃくちゃ上がりました。

セルフチェックシート*2は最初「めんどくさい」と思っていたけれど、続けていくと効果が表れてきます。問題を解いてすぐにとくとくと、「自分がどこでミスっていたのか?」「自分がどこまで行けて、どこから行けていないのか?」などが明確になります。数学は解答用紙がないと数式だけパーツと書き連ねがちですが、そこを言語化することで、穴埋めではない記述解答の国公立にも対応できます。セルフチェックシートで言語化する力がついたと思います。

グノーブルの先生

伊藤: グノの先生は、担当教科の専門であるだけでなく、その教科が本当に好きなのが伝わってくる授業をしてくださいます。そうすると、こちらもその教科のことが好きになります。だからこそ、私たちは毎週授業に行くのが楽しくなります。

岡野: 先生方の第一印象は「知識が豊富」です。英語だけでなく、様々



高瀬 あゆかさん
(慶應義塾大・桜蔭)

*1 SUMMING-UP LABORATORY: 高3の英語(読解)で毎回実施される英文の要約演習。一人ひとりの答えは担当講師が添削・採点して返却。音声教材も完備。知的にレベルの高い「読解力」の土台を築けるばかりではなく、「聴解力」「作文力」「話す力」や「プレゼン力」も鍛えるグノーブル独自の仕組みです。
*2 セルフチェックシート: 高2文系数学、高3数学で生徒自身が宿題終了後に記入するシート。解けた問題には「どう解いたか」、解けなかった問題には「何ができなかったか」などを記入。自分の傾向や理解度を分析して客観視し、次のステップへとつなげるグノーブル独自のツール。

な分野のことを知っていて、それを僕らに与えてくださいます。入試の英文はいろんな分野があって、土台となる基礎的なことを分かっているか分かっていないかで理解の深さが全然違ってきます。それがほぼ網羅されているグノの英文のおかげで、入試の英文も読みやすくなりました。

「必要なところは暗記して、暗記以外のところは考える」という姿勢もグノの先生から教わりました。

どの先生も共通してすごいのは、初回で名前を覚えてくださることです。グノーブルでは授業中に当てられてびっくりしましたが、「嫌だな」とは思いませんでした。そういう嫌悪感や抵抗感が生じないように授業されている先生方がすごいです。先生方の対応が生徒一人ひとりに親身で、僕たちを理解しようとしてくださっているのがしっかり伝わってきました。

竹内: グノの先生方は個性豊かですが、2～3時間の授業を1回も集中力を切らさないで全力でしてくださるのは共通しています。先生方が全力なので、生徒たちも「それに応えないといけない」という雰囲気になります。

僕はダジャレを交える先生の授業が好きでした。そのダジャレを聞いて、周りがウケていないけれど、僕的にはツボって内心爆笑していました。おかげで、集中力を切らさないで2～3時間の授業を受けられました。

渡辺: 僕は積極的に発言するタイプではあったのですが、1回間違えると恥ずかしさが先に立って発言できなくなってしまうところがありました。

でも、高3からは変わろうとしました。その時の先生が「間違いは成長につながる」と何度もおっしゃっ

ていて、その言葉が焼きついて、後ろに座るのをやめて一番前に座るようにしました。間違えることはずっと恥ずかしかったけれど、積極的に授業に参加できるようになったのは先生のその言葉がきっかけでした。そういう意味で高3の授業が一番印象に残っています。

高瀬: 私はグノの先生は、「人として人生経験が豊富だ」と思っていました。先生方は、形式的に授業をして「これだけ教えて終わり」という感じではなく、英文に関わる、プラスαのお話をよくしてくださいます。英語の知識を詰め込むだけでなく、それ以外の知識もいろいろ話してくださいさるのに感動しました。

先生が実際に経験されてきたお話が聞けると引きつけられます。復習で英文を読みながら、「この時先生がこういう話をしていたな」とふと思い出すので、「復習がつまらない」となりません。先ほど中学受験グノーブルの先生はキャラが濃いと話しましたが、大学受験グノーブルの先生もキャラが濃かったです。

先輩へのアドバイス

伊藤: グノと一緒に通っていた友達もみんな「通うのが楽しい」と言っていました。通っていて苦ではないし本当に楽しい塾です。先生の言うことを聞いて、それを信じて勉強していたら、私は成績が伸びました。

グノの先生と教材を信じて勉強することが、学力を伸ばす最も良い方法だと思います。

岡野: 巷で言うことと違うことをおっしゃる先生が多いけれど、僕はグノーブルを信じてやっていた結果、他の人よりも伸びる速度が速かったです。グノーブルの魅力に気づいていない後輩には、「グノーブルを信じて頑張ってみるのが、受験合格への一番の近道だし、先にもより広い道が広がっている」と伝えたいです。グノーブルを信じて勉強すれば、受験の結果に良い影響を与えますし、今後につながるはずですよ。

竹内: 僕はメンタルケア的な内容です。僕は共通テストでだいぶ失敗して千葉大の水準ギリギリでしたが、諦めなければ二次でいくらかでも挽回できるので、あそこで諦めなくて良かったと思います。後輩の皆さんも最後まで頑張り続けてください。一人で勉強していると絶対に行き詰まります。友達と良い意味で競い合ったり、ワイワイしながら勉強したりすると、病むこともないし、長い受験期間を乗り越えられるはずですよ。

渡辺: 諦めないこと、粘り強くいくことが重要です。それから、グノの先生を好きになりましょう。嫌いや苦手になるのではなく、好きになって、自分の悩み事を先生にすぐに相談すると合格へつながります。

高瀬: 自分の能力と今している努力

を信じることが一番大切です。私は、「慶應は無理」と言われたこともありましたが、でも、新高3でグノに入ってずっと英語をやっていて、「オールラウンドにできるようになった」という自信がついたからこそ、「慶應はチャレンジだけれど、受けてみるか」と思えました。最後まで志望校を下げず、結果的に合格もできました。志望校を下げるかどうかで悩んでいる時間があるなら、もっと有意義な勉強をしたり勉強のプランを考えたりすべきです。悩むということはその時点でちゃんと努力していて、自分の能力を客観的に見られる能力があるということです。今している努力を信じて、とにかく諦めないで最後までやると、びっくりする結果が待っています。

何かあったらグノの先生に聞くと解決していただけます。もともと先生との距離が近くて聞きやすい塾なので、それを活用して、授業のことでも受験全般のことでも、疑問や悩みはすぐに相談しましょう。

中学受験グノーブル盛田先生から高瀬あゆかさんへ

最初に授業をした時から大変しっかりした生徒さんで、問題の処理スピードも速く、感心した覚えがあります。95%できていても慢心することなく、残りの5%に向き合ってそれをしっかりと自分のものにしていくタイプでした。中学受験後も良いところはそのままにさらに成長なさったのではないのでしょうか。この先も目標に向かって頑張ってください。

国・私立大学 医学部 Part2

おくの としたか
奥野 利亮さん（東京医科歯科大・渋谷教育学園渋谷）

なかやま わたる
中山 渡さん（筑波大・麻布）

医学部志望のきっかけ

奥野：僕は小学生の時に指を骨折しました。当時の僕はピアノに打ち込んでいたので、骨折は大きな衝撃でした。それを外科医の先生が後遺症もなく治してくれたので、「やっぱりお医者さんはすごいんだな」と憧れを抱いたのがそもそものきっかけです。また高校の時に身内が亡くなった際「もっとできることがなかったのかな？」という思いがあって、高2の頃には医学部を志望するようになりました。今は臨床よりも

研究に進むことを考えています。

中山：医学という学問自体にもともと興味があって、一番学びたい学問が医学だったので志望しました。国境なき医師団で活動したいというのも動機です。高校1、2年の時に国際交流を経験し、各国の代表が抱く使命感や未来に対する責任感について学ぶ機会がありました。僕も「何か貢献できないかな？」と考えた時、「国境なき医師団として、恵まれない人たちを助けたい」と思ったことも医学部志望のきっかけになりました。

グノーブル入塾のきっかけ

中山：僕は高1の夏期講習から入りました。入塾のきっかけは母の勧めです。当時僕は部活をふたつ兼部していて忙しく、勉強に対する意識も高くありませんでした。でも、周りのみんなが高1から塾に入っていたので、「どこの塾に入ろうか？」と考えてはいました。この時に母がインターネットで調べて勧めてくれたのがグノーブルでした。

奥野：僕は中3の夏期講習で入りました。中3になって学校の英語のテストがいきなり難しくなって、僕でなく母が焦って塾を検討することになりました。とはいえ、僕は中学受

験も塾なしで乗り越えたので、どんな塾があるのかも知りませんでしたし、塾に良いイメージも持っていませんでした。学校ではみんな塾の宿題をやっているし、小学校でも中学校でも寝ている人ばかりでした。だから、教室の中に詰め込まれて先生の話をつたすら聞いて、宿題も大量にやらなければいけないイメージがありました。

この時、母がインターネットでグノーブルを調べて勧めてきたので、「とりあえず行ってみようかな」という気持ちで講習に参加しました。入室テストでは基礎的なクラスでしたが、グノーブルは宿題は多くないし、何より授業が面白かったので入塾しました。グノーブルは、塾に対する僕のイメージを覆すほど画期的な塾でした。英単語が語源から説明されて、いろんな英単語がつながっていくのが見えてきた時には、「英語は本当に面白い」と思えました。

中山：僕もいろんなところからグノーブルの評判を聞いていました。実際に通ってみて、他塾の発想とは違って、宿題をこなすのが勉強の中心ではないのが魅力でした。高3は勉強するのが当たり前ですが、高1、2の時は、部活と勉強とを両立してやらなければならない人もいます。

グノーブルは授業中の演習で自分の課題を浮き彫りにして、直後に行われる解説でしっかり理解できて、宿題ではなく復習を大切に力を伸ばすやり方が僕は良いと思いました。

学校とグノーブルとの両立

中山：グノーブルは負担が少なかったです。グノーブルに通っている人が同じ学校に結構いましたが、グノーブルの宿題を学校でやっている人はいませんでした。高1、2で両立できるかどうかは塾によって違います。その点グノーブルは両立しやすい塾でした。

奥野：僕も両立はできていました。さすがに高3になると、勉強時間の中でグノーブルの占める割合は大きくなりました。それでも、学校でグノーブルの宿題をやることはありませんでした。他塾に通っている周りの人たちが4、5冊の分厚い教科書を持っているのに対して、グノーブル生は毎回の授業で新鮮な教材が配付されるので、薄いテキストを1冊持って塾に通っていました。だからといって、僕はグノーブルで不安に思ったことはありませんでした。

グノーブルの評判

奥野：学校では評判が高かったです。高2になるとみんなが受験を意識し出します。いろんな塾に行っている人がいるので、いろんな人がいろんな人に塾のことを聞きます。僕は他塾の人から「グノーブルって、どんなことをやっているの？どんな感じなの？」と聞かれて、「面白い話題の英文をいっぱいやるよ」と答えていました。高3の授業で毎回やるサミングアップ*はやりがいもあって、英語力を上げる効果もあったので特に真剣に取り組んでいました。グノーブル生同士でもサミングアップ

のことをよく話題にしていました。

家でもグノーブルで扱った英文のことを話題にしていました。母も「今日はどんな文章だったの？」と興味を持っていました。

中山：僕も学校ではグノーブルに通っている人同士でサミングアップの話はよくしていました。数学のクラス分けテストのことも話題にしていました。

グノーブルの英語

中山：英語に苦手意識はあまりなかったけれど、文法がめっちゃくちゃでした。僕は4、5歳までロンドンに住んでいました。そのため、英語の感覚はちょっとありましたが、正確に英文を書く力や難しい英文をしっかりと読む力、つまり受験で成功するための英語力はグノーブルで伸びました。

グノーブルの英語の授業では思考力が養われます。難しい英文には、ただ文法を知っていると、ただ単語を知っているとでなく、正しい読み方があります。これをグノーブルで身につけられました。グノーブルで身につけた力は将来的に活かせると思います。

市販のテキストの解説は、単語と文法的な説明と全文和訳です。それだと、難しい英文を理解することができません。グノーブルの授業で行われる解説は、英文の背景にまで及びます。一見脱線しているように見える話の中に、その文章の大事な考え方を理解する鍵があります。それがとても重要でした。

奥野：英語については得意でも苦手でもありませんでした。学校は中1から文章を読ませる教え方でした。だから、文法に対する苦手意識はあったけれど、文章だったら何となく読めて、そんなに苦手とは感じま



中山 渡さん
(筑波大・麻布)

せませんでした。

でも、本当に英語力が伸びたのはグノーブルに入ってからでした。グノーブルで扱う英文は、過去問もありましたが、大半は本の一部やニュースが教材になっていました。おかげで、大学受験にとどまらない、もっと先まで活かせる英語を学べました。また、僕は帰国生でないけれど、解説を聞いたあとに「この文章はきれいだな」と思うことがあって、とても質が高い文章に触れられました。

医科歯科の推薦入試では小論文と面接があって、小論文に参考資料がついていました。この参考資料が60ページくらいの英語の論文です。それをバツと見た時ウゲツとはなりましたが、グノーブルである程度難しい英文を読んできたので、そんなに動揺しませんでした。論文なので医学的な単語が多い中、分からなくてもある程度推測できたのは、語源から単語を教わってきたので知らない単語でも「単語の顔つき」は分かったし、文脈で語義が決まるのだと授業中も繰り返し言われ続けて



奥野 利亮さん
(東京医科歯科大・渋谷教育学園渋谷)

* SUMMING-UP LABORATORY：高3の英語（読解）で毎回実施される英文の要約演習。一人ひとりの答えは担当講師が添削・採点して返却。音声教材も完備。知的にレベルの高い「読解力」の土台を築けるばかりではなく、「聴解力」「作文力」「話す力」や「プレゼン力」も鍛えるグノーブル独自の仕組みです。



奥野 利亮さん
(東京医科歯科大・渋谷教育学園渋谷)

きたからだと思います。このような論文はまさしく大学に入ってから読んでいくことになるものなのでしょう。

中山: 僕も似たようなことですが、受験のための力だけでなく、英語力の土台が整ったと思います。英語の論理の展開とか、パラグラフをどのように英語では構成するかなど、問題の解き方というより、もっと本質的なことを教えてもらえました。受験で終わるような勉強ではなく、受験である程度伸ばして、大学でさらに積み上げていける学びでした。

グノーブルの音読

中山: 僕は理系で物化選択でした。最後のほうは物化勝負になって、英語がおろそかになりがちでした。でも、毎日10分でもそれよりも短くても音読すると、短時間で英語の力を維持できました。一瞬で英語脳に持っていける道具として音読は有益でした。

黙読でなくて音読のほうが優れているのは、口に出して言う点です。黙読だと、受け身で文章を流していくことになってしまいます。でも、音読は自分から言葉を発しないといけないので、文章の内容をしっかりと捉えながら言葉に出すことになりま

す。音読していると、書かれていることが頭の中できちんと整理されていきます。これが黙読との大きな違いです。授業で理解した文章を黙読ではなく音読することが大切です。

奥野: 音読を高3からやって、本当に力がつきました。高3の学校の授業は全部演習だったので、そこでは力試しを毎回やっているだけでした。新しい文章に触れて、それを解説を受けて深く理解して、その上で復習するという機会、つまり実力を上げていく機会がグノーブルしかありませんでした。

「グノーブルの先生の言うことを信じてやっていこう」と思って、音読にも力を入れていました。最終的に難しい文章でもかなりの理解を伴って読めるようになったのを考えると、音読は効果がありました。何よりも短時間で効果を上げられるのが音読のすごいところです。

授業内演習と添削

奥野: 授業内で演習できるのは良かったです。その中で同じクラスと同級生に負けたくないという気持ちもありました。添削も「ここまでしっかり見てくださったのか」と思うほどで、点数が悪かったら若干落ち込みますが、それでもその分授業にしっかり身が入って良かったんです。

グノーブルの授業は長めですが、宿題にかける時間がほとんどいらないことを考えると、その時間は他科目に使えるし、グノーブルの授業は常に集中できるので効率の良い勉強ができたと思います。

中山: 奥野君と同じで、授業内の演習、解説、理解と授業外の復習のスタイルは勉強しやすくて助かりました。他の勉強もあるので、演習も授業中に組み込まれているのは良かった

たと思います。添削では、同じ学校で同じクラスの人と点数を競いました。点数が伸びない時期もあったけれどモチベーションになりました。やはり先生にちゃんと見てもらえて点数もつけてもらえると気持ちも違えます。

グノーブルの数学

中山: 僕はもともとタイプとして文系寄りだったので、「数学が何のためにあるの？」みたいな感じで、かなり苦手で嫌いでした。「数学＝公式暗記」というイメージがありました。学校の数学はレベルが高く、学者肌の先生が、自分が得意だからか、「分かるでしょ？」といった雰囲気

の授業をしていたのも苦手の原因でした。一方、グノーブルの数学は最初から教えてもらえました。「公式がどうしてあるのか？」から始まるので、「その公式があるのは当たり前だね」というところまで理解できます。思考力が身につくまでの道のりは平坦ではありませんでしたがグノーブルで培えました。

授業時間外にも数学の先生とたくさん話ができました。先生と話すごううちに、「数学は、昔から人間がいろいろ考えていく過程で必然的に発生してきた考えで、それを今自分が学んでいるんだ」と気づいて、数学が楽しくなってきました。

高3になってからは、演習に追われているだけで自分が見えなくなるというか、本当に数学が解けるようになったのかさえ分からなくなる時がありました。でも、セルフチェックシート*を週1回書くことが習慣化されて、書いている時には自分を冷静に見られました。セルフチェックシートがあるので、「本当に自分ができているのか?」「正しい考

え方ができているのか?」が客観的に分かるようになりました。課題が具体的に見えて、とても有効でした。

グノーブルの物理

中山: 物理は公式が多く、塾によっては覚えるだけの授業なのかもしれません。テキストや参考書を見ても公式だけがバーンと載っていて、肝心なところが書かれていません。一方、グノーブルの物理は身近な現象からスタートして、「その現象が起こるためにはこの公式がないとダメだよ」といった、プロセスが分かって、頭にスッと入ってくる解説でした。公式から入るのではなく現象から入るのが他との違いです。公式は現象を理解するためにあることが理解できて、公式に対するモヤモヤした印象が解消できました。

それから、公式はひとつだけでなくいろいろあります。ひとつの問題を解く時に2パターンでやってみるのもグノーブルの物理の特徴です。正攻法とちょっと時間がかかる別の方法を学びました。時間内で解くとなると正攻法のほうが良いけれど、もうひとつのやり方を教わることで、本当の理解ができて、さらに難しい問題に対応できる応用力が身につきました。



中山 渡さん
(筑波大・麻布)

グノーブルの化学

中山: 高2から取っていました。高2では実験が多くて、実験後に「どうしてその現象が起きたのか?」を考えます。先生が黒板に書いて一方的に授業するというよりも、先生が質問して生徒が考える双方向的な授業です。生徒が分からなかったら、先生がヒントを出してくださるので、自分の頭を使って答えを導き出していく感覚でした。もちろん生徒は答えを知らないけれど、必要な知識は与えられていて、その知識の中からどれかを選ぶとその現象を説明できます。一方的な解説ではなく、考えないといけないのが面白かったです。

グノーブルの先生

奥野: ギャグや名言にあふれている先生がいっぱいでしたが、それを友達がまねしていて、しかもものすごく似ていたので、みんなでも楽しんでいました。

1回の授業に使う先生たちのエネルギーがすごいとも感じていました。「先生も頑張っているから、自分もできる限り吸収しよう」と思っていました。

中山: 先生と生徒の距離感が近いです。特に物理の先生は、人生の先輩でもありましたが、友人のような感覚さえ持てました。プライベートなことでも冗談を交えて話すことができたので、受験期でもビリビリせず、だらけることもなく、「全員で成長していこう」という雰囲気がありました。

後輩へのアドバイス

中山: 受験期は、模試の判定などで周りとは比べたがる人が出てきます。でも、それはその時の一瞬の実力差であって、別に結果ではないから、

それで自分を見失う必要はありません。しっかり自分の軸を持って、勉強する時はちゃんと集中するし、集中できない時は切り替えましょう。僕はよく銭湯に行きましたが、「休憩する時は休憩する、やる時はやる」が良いと思います。「長時間勉強すれば良い」みたいな風潮もありますが、短期間でも濃密な勉強ができたほうが頭に入るし、それで成績も上がると思います。休憩と勉強のメリハリをつけて頑張ってください。

奥野: 学校の先生から「みんな何が目標なのか? 大学に受かることが目標なのか、その先にある自分の夢に向かうことが目標なのか?」と言われていました。要は、受験のためだけに徹夜するようなことをせず、「自分はこうなりたいから、これをやる」と決めたほうが良いということだと思います。受験はあくまでも通過点だと考え、一生に一度しかない高3の生活も楽しんでほしいと思います。

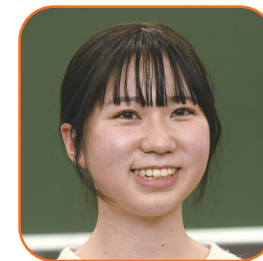
*セルフチェックシート：高2文系数学、高3数学で生徒自身が宿題終了後に記入するシート。解けた問題には「どう解いたか」、解けなかった問題には「何ができなかったか」などを記入。自分の傾向や理解度を分析して客観視し、次のステップへとつなげるグノーブル独自のツール。

中学受験グノーブル OB・OG座談会



わたしたち 中学受験グノーブルから お世話になりました！

大学受験グノーブルには、
中学受験グノーブルからずっとお通いの生徒さまが
多くおられます。
中学受験グノーブルの先生方から 17 期卒業生へ、
大学合格のお祝いメッセージが届きました。
グノーブルを通じ、一貫して学び培われた
「知の力」がどのようなものか…
卒業生の声に耳を傾けてみましょう。



あかみね ゆう な
赤嶺 佑奈さん
(東京女子医科大学・
浦和明の星女子)



ひとまつ だい き
一松 大輝さん
(京都大農・麻布)

医学部受験のきっかけと面接対策

赤嶺：医者になりたいと思ったのは小さい頃です。当時の私は病院に行くことが多くて、そこで受ける検査を毎回怖がっていました。その時に受け持ってください小児科医の先生が、いつも笑顔で幼い私にも分かるように説明してくださって、その姿を見て憧れました。

また、家族が医者にかかった時、担当の先生が親身に寄り添ってくれたことで、祖父が治療に前向きになっていく姿を見ていました。医師の仕事は患者さん本人も家族も救える仕事だと思いました。臨床を目指しますが、機会があれば研究にも少

し携われたらと思います。

面接はそこまで力を入れませんでした。基本的な志望理由などは考えておきました。それから、最近の面接では MMI^{*1} という形式が増えていて、いろんな学校で学生の即興性を試す質問をするようになりました。たとえば、あなたが飲食店の店員だとして、客からクレームを言われたらどう返すかという質問があります。「質問が何を意図しているのか？」を考えるだけでも一本筋が通った回答ができるので、それを考えるのが一番の対策になるかなと私は思っています。

グノーブル入塾のきっかけ

赤嶺：私は「中学受験をする」と決めた時に母から勧められたことが一番大きいです。成城学園前校で算数の先生に体験授業をしていただいて、集団授業の塾なのに個人を見てくださるスタイルに惹かれて入塾を決意しました。

どの教科の先生も個性豊かで楽しい授業をしてくださったのが印象深かったです。社会ではモニターを使って映像を見せてくださったり、派生する話をしてくださったりして、中学受験へ向けた授業とは思えないような、毎回通うのが楽しい授業をしてくださいました。本当に一人ひ

とりに声をかけてくださるので、遊びに行くわけではないけれど、塾に行くのが楽しみでした。宿題も多すぎではなく、先生が一人ひとりの宿題をちゃんと見てくださるので、それをモチベーションにできました。

大学受験グノーブルは、数学と英語の両方でスタートダッシュ講座^{*2}を受けました。中学受験の時から算数が苦手だったので、数学は中1から入りました。英語は中学2年生の冬からです。中学受験グノーブルがすごく楽しかったので大学受験でもお世話になろうと思っていました。
一松：僕も「中学受験をする」と決めてから、自分の習い事と曜日が合う日程の塾を探しました。クラスの中に多くの生徒がいるのはちょっと苦手だったので、少人数制の塾を探した結果、近所にあるグノーブル成城学園前校に決めました。

先生が授業に関係すること以外にもいろんな話をされました。しかも、ただ話すだけでなく、ユーモアを交えて話すのが面白かったし、それに生徒も惹かれていって、みんなでどんどん授業にのめり込んでいきました。

直すべき点はちゃんと指摘してくださる先生が多かったので、そのおかげで人間的にも成長できました。

僕は理科の授業で、問題が解けなくて若干自暴自棄になった時に注意していただき、そのおかげで諦めずに勉強と向き合える精神を育めました。先生方は実際に生徒の勉強を見ている立場から、日頃の頑張りを認めた上で励ましてくださいますので、説得力がありました。

高1の冬休み前くらいに「そろそろ大学受験を視野に入れよう」と考えて、英語が得意ではなかったので、とりえず英語に強い塾を探しました。この時、自分の周りでグノーブルの英語の評判が良く、中学受験の良い印象もあったので、冬期講習に参加しました。そのまま入塾テストを受けて通常授業に通い始めました。

大学受験グノーブルの印象

一松：最初は、扱う英文が長く難しいという印象で、「こんなのできるようになるのだろうか？」という不安はありました。でも、先生の解説が分かりやすく、単語も丸暗記するのではなく語源から理解していけば頭に入りやすいのだと教えてもらいました。

そもそもグノーブルは単語帳を推奨しません。僕は単語帳が好きではなく、中3までは単語帳を買ってやってみたんですが、最後まで完遂できませんでした。一方、語彙を分

解して成り立ちから捉えるというグノーブルの覚え方は自分なりにしっくりきて、自分の語彙力向上につながりました。それが他塾との大きな違いです。

高3からは、最初にやるサミングアップ^{*}のおかげで英語全体の力が一気に上がりました。サミングアップは要約の実力だけでなく、英文読解のいろんなところの実力向上にもつながります。リスニングも毎回やるのでリスニング力も鍛えられました。

赤嶺：先生方が一人ひとりを見てくださったり、ちゃんとコミュニケーションを取ってくださったりするところは中学受験グノーブルと変わっていませんでした。集団塾であそこまで添削を一人ひとりにしてくださる塾は他に知らないの、そこはグノーブルの特長なのだと思います。

それから、グノーブルはちゃんとした量の宿題は出るけれど、そんなに無理な量ではなく、量より質を重視している塾だと感じました。

学校でのグノーブルの評判

赤嶺：よく友人とグノーブルの話をしていました。英語を取っている子が多かったので、英語の話で盛り上がるのが多かったです。授業中に先生がしてくださった面白い解説の



一松 大輝さん
(京都大農・麻布)

話題で盛り上がったり、宿題の進捗を確認したりしていました。

一松：僕は管弦楽部と音楽部と生物部に所属していました。同じ部活に入っている人とグノーブルの話をよくしました。英作文やサミングアップの添削物を出す前にお互いに見せて、より良いものにしてから提出して、返ってきたのをまた見せ合って「点数どうだった？」と確認するなど、切磋琢磨しました。「授業で先生がこういうことを言っていたから、こういうことなんじゃないか？」みたいに指摘し合うこともしていました。



赤嶺 佑奈さん
(東京女子医科大学・浦和明の星女子)

^{*} 1 MMI：Multiple Mini Interview で、複数の課題を用いた面接試験。提示された状況にどう対処するかが問われる。
^{*} 2 スタートダッシュ講座：新中1対象の講座（2～3月に開講）。

^{*} SUMMING-UP LABORATORY：高3の英語（読解）で毎回実施される英文の要約演習。一人ひとりの答えは担当講師が添削・採点して返却。音声教材も完備。知的にレベルの高い「読解力」の土台を築けるばかりではなく、「聴解力」「作文力」「話す力」や「プレゼン力」も鍛えるグノーブル独自の仕組みです。

学校とグノーブルとの両立

一松: 僕の場合、グノーブルの宿題が適度だったので、塾の宿題が忙しくて部活に出られないということはありませんでした。部活が好きだったので助かりました。

赤嶺: 中学の時は英数だったけれど、高校では英数だけでなく、生物や化学、国語、小論文でもお世話になっていました。宿題については一松さんと同じです。学校が都心ではなく、学校から塾まで来るのに時間がかかりました。受験直前まで6限までみっちりある学校だったので、振替がしやすかったり後コマがあったりしたグノーブルは授業が受けやすくてありがたかったです。

グノーブルの英語

赤嶺: 中2の時、グノーブルの英語を本格的に受け始めたら、最初は「難しいな」と感じました。クラス分けテストの直前に「このままだとダメだ」と思って、追いつきたくて勉強したら、成績が一気に伸びました。

英語は全く得意ではありませんでしたが、数学ができなさすぎたので、数学よりは点数が取れていました。模試などでも安定していました。グノーブルの復習をやっていたおかげです。

高校生になると英作文やサミングアップがすごく難しくて、「本当にこんな解けるようになるのかな？」という問題にも出くわしましたが、頑張るとりあえず答えを出しました。こういう問題は自学だとそのままになるけれど、それを先生がちゃんと見てくださるので、「ここが分かれば解けたのか」という発見が毎回あって、少しずつ自分の成長を感じられるのが楽しかったです。

一松: 僕は英語が苦手です。「嫌い」

という意識もありましたが、グノーブルのおかげでかなり好きな科目になりました。

サミングアップの添削が実力をつけるのに役立ったと思います。サミングアップはレベルが高くて深いので、サミングアップがある程度できるようになると、外部模試や校内模試の要約でも満点が簡単に取れるようになります。慶應義塾大学を受験した時、毎年科学的な用語などの知識問題が多かった第4問が今年は要約と英作文でした。「以下の文章を要約せよ」という問題でしたが、途中で訂正が入って「要約せよ」が「趣旨を述べよ」に変更されましたが、サミングアップでいろいろなパターンをこなしていたので、対応に困ることはありませんでした。

英作文は長く苦しみましたが、受験の英作文にはある程度のパターンがあります。グノーブルの英作文をやっているとそのパターンが見えてきて、難しい単語を使わなくても自分の知っている単語を組み合わせで納得のいく文章を時間内に作れる実力が最後に身につきました。先生にも「成長したね」と言われたのを覚えています。

英語の勉強法

赤嶺: 割と早いうちから大学受験グノーブルにお世話になっていたのですが、そんなにグノーブルでがらりと勉強法を変えたところはありません。中学の時は文法の堅苦しい形を頭に入れるというよりも、グノーブルの例文をGSL*を使って音読して、英語の音と一緒に基本的な文法を頭に自然に入れてしまえました。そこから高度な文法の知識をつけていくのが文法を学習する上で良かったと思います。

一松: グノーブルに入るまでは英語



赤嶺 佑奈さん
(東京女子医科大学・浦和明の星女子)

の勉強をする時はただ読んで答えを出すだけでした。それに対して、一度やった英文を音読して、すらすらと意味が入ってくるまで繰り返し音読するグノーブルの勉強法がとても効果的でした。音読はリスニング力も読解力も養えます。どんどん自分が英文を捉えられるようになっていくと実感できました。

英文には、「筆者はこれを伝えたいんだ」という文と、それをサポートする文があって、その見分け方をグノーブルでは教えてくれるので、筆者の主張を感情を込めて音読できるようになりました。筆者は文章全体を均等に読者に伝えたいわけではないので、英文の骨格の部分をつまんでいくことに慣れると、全体が立体的に見えるようになって、とても見通しが良くなっていきます。

赤嶺: 初めての英文を見て音読する時は、慣れていない文章なのでそもそも声に出すだけで頭がいっぱいになります。グノーブルだと、年間を通してたくさんの英文を音読していくことになるので、頭も英語らしいメロディーを覚えていって、様々なところに目が行き届くようになり、新たな気づきがあったりします。

単語帳を使わない勉強法

赤嶺: 単語帳は学校で試験がある時は使っていたけれど、それ以外に個人で買うことはありませんでした。他塾の人はみんな単語帳を自分で買っていて、私も高1・高2の時は「語彙が足りないな」と感じて、単語帳をバリバリやっている子と比べて不安になったこともあります。でも、グノーブルの先生方が、授業内で出てきた単語を何度もしつこいくらい教えてくださったり、語幹も教えてくださったりしました。そのおかげで、高3になると何となく「こことあそこがつながっているのかな」と推測できるようになりました。サミングアップで知らない単語が出てきても、推測で書いてみたのが合っていた時、グノーブルで教わったことが力になってきていると実感しました。

一松: 僕は学校で配られたものの他に、高1で単語帳を買いましたが、量が多くて、最後までできませんでした。学校でやった単語帳も学校で指示されていたのでやってはいましたが、難解大の英文を解いていると「単語帳どおりの訳では綺麗な訳にならない」と気づき始めて、「グノーブルの英単語の本来のニュアンスを捉えていく方面からアプローチする覚え方が必要だな」と実感しました。結果として、自分でもそういうのをある程度つかめるようになりました。

授業内演習のメリット

一松: 添削がすぐに返ってきて、「自分がどこを間違えたのか?」「どこをもっと理解するべきなのか?」を分かった上で解説を聞けるのが大きなアドバンテージになりました。僕は気分屋なので、点数が悪いと機嫌が悪くなることもあるけれど、

「次は高い点数を取ってやるぞ」という気持ちも湧いてきます。先生のコメントも毎回楽しみで、とても良かったです。

赤嶺: 私はそんなにストイックな性格ではないので、予習でやってきた問題を授業で解説されて、それを家に帰ってすぐに復習して丸つけしてみろという、他塾の授業のようなことはできません。グノーブルは授業内で演習して、記憶が新しいうちに解説を聞いて、分からなかったことをすぐに解決できます。この方法が私には合っていましたし、自分の感触を覚えているうちに解説を聞くと、定着度が高まって効率も良かったです。

英語の勉強法の工夫

赤嶺: やって良かったのは、100円ショップで売っているポケットファイルに、毎回のサミングアップのプリントを白紙のものと、解いて添削してもらったものの2枚を見開きで入れたことです。音読する時は白紙のほうを見ながら、分からなくなったら、解説のあるほうを片目で見られるようにしました。それを毎回授業が終わるたびにやっていくと、春からのプリントを全部見られます。私はめんどくさがり屋なので、めんどくさいとやらなくなります。そうやってプリント一冊がちゃんとまとめられていると、気軽に音読しやすくなります。このまとめ方は自分に合っていました。

一松: 返ってきた添削物を家で常に傍らに置いて毎日音読しました。それだけでなく、書き直すのをやったのも良かったです。単語力を養うための教材を次の週の授業まで部屋の壁に張って、部屋から出る時に通りやってから出るのを続けていたら、単語を覚えられました。

グノーブルでは英語の過去問を勧めてきません。周りの人たちは夏の終わりから過去問をやっている人が多かったけれど、僕自身は過去問をたくさんやることはそもそも考えていませんでした。結果的に、2月になってから3、4年分の過去問しか解いていません。「過去問を10年分くらい解いている時間があるなら、それを今までの授業の復習に充てたほうが実力を上げられる」と思っていました。

グノーブルの数学

赤嶺: 数学も授業内に演習してそれをすぐに解説していただけたのが良かったです。中学生の時から宿題をルーズリーフに書いて提出すると、細かいところまで先生が見てくださって、たくさん指摘してくださいます。先生が継続して見てくださるので、前に解けていなかった問題が解けていると褒めてくださいます。数学は本当に苦手だったけれど、毎回先生の添削をモチベーションに楽しんで宿題をしていました。

自分一人で問題を解くと、○×をつけて「どこでつまかった」とか「この解法が出てくれば良かったな」とかの見直しで終わります。でも、セルフチェックシート*のおかげで、



一松 大輝さん
(京都大農・麻布)

* Gno-let Sound Laboratory: 中1から高3までの6学年すべてに毎週用意されているオリジナル英語音声教材。合理的練習法(ワークアウト)も確立されており、英語が得意なグノーブル生の土台を築いています。

* セルフチェックシート: 高2文系数学、高3数学で生徒自身が宿題終了後に記入するシート。解けた問題には「どう解いたか」、解けなかった問題には「何ができなかったか」などを記入。自分の傾向や理解度を分析して客観視し、次のステップへとつなげるグノーブル独自のツール。



赤嶺 佑奈さん
(東京女子医科大学・浦和明の星女子)

先生が解説してくださった内容と、自分が実際に解いた時の解き方をちゃんと照合して、「次どう活かせばいいのか？」という振り返りができました。これはセルフチェックシートがないとできませんでした。大量に問題を解くことができなかったの、一問一問で多くの気づきを得られることが良かったと思います。

最初はセルフチェックシートに何を書けばいいのかが分からなくて、「とにかく埋めなきゃ」という気持ちが強かったけれど、先生が授業の解説で生徒一人ひとりの答案に対して一つひとつコメントを返してくださったので、他の人がどう解いていたのかを知ることができました。そうやって自分の答案を多角的に見ることができるという構図になっていて、自然と多くの気づきを授業中に得られました。

セルフチェックシート1枚を書くのにかなりの時間をかけていましたので、ちょこちょこ分割して書いていました。授業が終わったあとに書くだけでなく、解き直しをしてから気づいたことも書き足せて、濃い復習ができる仕組みだったと思います。私は数学が苦手で、解法や問題を見ると頭がごっちゃになるタイプです。でも、毎回のセルフチェックシート

で「こういう時はこうすれば良かった」とか「こういう選択肢を持っておくべきだった」とかを客観的に分析することで、少しずつ頭の中が整理されて、試験本番の限られた時間内でもなるべく最適解を見つけるという思考力を養えました。

グノーブルの国語

赤嶺：国語は短期で受けました。漢文の虎の巻や駆け込み古文、共通テスト古文を取りました。私は「国語はそれなりに取れる」と思って放置していて、共通テストでしか使わないので受験勉強もしていませんでした。でも、実際に共通テストを解いてみるとすごく波があって困りました。その時に共通テストの国語の講座を受けたら、問題の見方を体系的に教えていただけて、どんな文章でも対応できることを学びました。その後特に何かしたわけでもないのに、国語の点数が安定するようになって感動した覚えがあります。

グノーブルの生物

赤嶺：ただ板書を写すだけでなく、モニターなどで実物を見せてくださ

り、実物を想像する力も養ってくれました。そういうところは記述問題や考察問題でも役立ちました。生物は最近思考力問題が増えてきていますが、それにも対応できる力が養われました。

グノーブルの化学

赤嶺：化学は本当に苦手で、最後まで苦手でした。でも、授業内で実験を目の前で見せていただけたので、問題集や参考書だと小さく書かれていることを問われた時に「あの実験でこういうテンションでやっていたな」と思い出すきっかけになりました。授業内の質問に対して「そんなの分からないよ」と思っても、そのあとにすごく魅力的な解説をしていただけたので、それが印象に残りました。おかげで記述力もつきましたし、「どういうポイントで記述すればいいのか？」という視点も自然と養われました。

グノーブルの先生

一松：中学受験グノーブルと大学受験グノーブルの共通点としては、先生のアドリブ的な発信が多い点が挙

中学受験グノーブル平野先生から赤嶺佑奈さんへ

この度の合格誠におめでとうございます。

中学入試の時から授業中の真剣な取り組み、分からない問題への丁寧なアプローチなど学習に対する姿勢が素晴らしかったです。きっとその後の中学高校の6年間の学習を通してさらに才能を伸ばされたのでしょう。小学生の時の夢の実現にまた1歩近づきましたが、ここからもきっとこれまでの学習から得た経験が大いに役立つものと思います。また応援しております。

中学受験グノーブル永井先生から一松大輝さんへ

計算の跡や図への書き込みがほぼ見られない問題用紙、一方で、解答用紙には合格点の正答数ときちんと考えたことがうかがえる誤答内容、小学4年生時の一松くんの入室テストのようすです。その後、授業を通じて三年間の時間を共にしました。元来の思考力に磨きをかけつつ、自身で苦手だと認識したものに対するここ一番での努力がとても印象的でした。進学おめでとうございます。これからの更なる飛躍とご活躍を期待します。



一松 大輝さん
(京都大農・麻布)

げられます。先生はある程度話す内容を授業前に決めていると思うんですが、その中でも生徒の反応に合わせて話の選び方が生徒の心をつかみます。

他には、質問や学問的欲求に対してとことん答えてくださるのも共通点です。生徒の名前を覚えてくださるのもうれしいです。グノーブルの先生方は生徒に当てて答えさせてくださるので、その過程で生徒と先生の対話が必然的に増えます。そういうところも良かったです。

赤嶺：先生方との距離感はとても近くて、いつでも質問できる空気感があります。だからといって先生方は個人の志望校や成績に干渉してくるわけではありません。本当に個人個人の意思やスタイルを尊重してくださって、時には的確なアドバイスをしてくださって、そういう距離感や空気感はとても居心地が良く、学んでいて楽しかったです。中学受験グノーブルも大学受験グノーブルも先生方には共通した素晴らしさが感じられました。

後輩へのアドバイス

一松：グノーブルは受験に必要な基礎力をすべて生徒に提供してくれて、しかもそれを実践する場もグノーブ

ル内で作ってくれる塾です。受験は難問を解き切る力ではなく、みんなが取れる問題で自分も逃さず取って他の人に差をつけられないようにしつつ、ちょっと難しい問題にも自分の基礎を活かしつつアプローチしてちょっと差をつけて勝利するものだと思います。だから、過去問に傾きすぎたりして、グノーブルで習う基礎を怠ることを絶対してはいけません。

それから、国立だと学部によって共通テストの配点が変わってくるので、志望校は早めに決めたほうが良いです。僕が志望校を決めたのが1月で、共通テストが終わったあとに点数を見て迷いました。もっと早く志望校を決めて、苦手な共通テストの社会を勉強すべきだったと反省しています。志望校特有の配点などは、過去問を解くずっと前から知っておくことが大切です。僕を反面教師にしてください。

赤嶺：グノーブルの授業は一見すると受験受験していません。でも、グノーブルの問題は汎用性が高く、10校以上受験した私も全く困りませんでした。途中で志望校を変更することになっても、不安に思わなくて大丈夫です。グノーブルの宿題や授業を大事にして、最後まで自分を信じて勉強することが大切です。



知の力を活かせる人に

私たちは、生徒の皆さん一人ひとりと誠実に向き合います。

皆さんが、将来にわたって活躍できる土台となる、

有機的知識・思考力・判断力・コミュニケーション能力・心の強さを
身につけていくことを常に念頭に置いた指導をお約束します。

何より、皆さんの意欲や好奇心といった心の中の火を

無味乾燥な受験勉強で消してしまわない、

活き活きとした環境を提供していきます。

大学受験



Gnoble

大学受験 グノーブル

難関大学・医学部を目指す中1生～大学受験生

本物の知的体力がますます求められています。その知の力を伸ばすのに最も大切な要件は、前向きになれる、知的刺激にあふれた環境で学ぶことです。授業形式、教材、そして、教職員の接し方に至るまで、皆さんが意欲的になれる環境を整備し、難関大学・学部を目指す皆さんをしっかりサポートしていきます。

中学受験



Gnoble

中学受験 グノーブル

難関中学を目指す小学生

最新の入試傾向に対応したカリキュラム、精選されたオリジナルテキストを基に、経験豊かな講師陣が一人ひとりに向き合った双方向の授業を展開し、難関中を目指す子どもたちを導いていきます。学習したい教科や志望校別のクラスが選択できるなど、中学受験に関するさまざまなご要望にお応えしていきます。

個別指導



GnoLink

個別指導 グノリンク

難関校を目指す小学生～大学受験生

生徒一人ひとりに心を配り、その子の持つ可能性を追求します。学習状況に合わせて、講師1名に生徒2名、あるいは生徒1名の完全個人指導体制を提供します。中学受験・大学受験グノーブルと並行して通うことも可能です。グノーブルオリジナルテキスト等も併用しながら、個別に対応します。

英会話



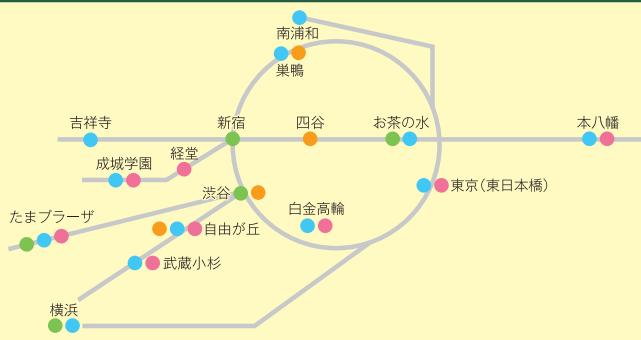
GnoKids

英会話 グノキッズ

0歳児～小学生

さまざまな楽しい英語体験を通して、聞く、話す、読む、書くの4つの力を伸ばします。先生2名に生徒は8名程のクラスで、ネイティブの英語に触れ、親むことができます。ご家庭での学習も配慮した教材で、継続的な学習を無理なく行うことができます。

Gnoble グループ 各校舎所在地



Gnoble
GROUP

大学受験 **グノーブル**
個別指導 **グノリンク**

中学受験 **グノーブル**
英会話 **グノキッズ**

グノーブル総合案内
www.gnoble.com